

科目名	リハビリテーション医療・医学																																
科目責任者	片桐伯真																																
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 5セメスター																																
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：リハビリテーション総論・概論</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第2回：脳損傷のリハ：総論・リスク管理</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第3回：脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群</td> <td>西村立</td> </tr> <tr> <td>第4回：脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ</td> <td>高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第5回：脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第6回：神経疾患のリハビリテーション</td> <td>高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第7回：摂食嚥下障害のリハビリテーション</td> <td>國枝顕二郎</td> </tr> <tr> <td>第8回：地域リハ・社会的・職業的リハ</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第9回：運動器疾患のリハビリテーション (骨折・切断等)</td> <td>町田清子</td> </tr> <tr> <td>第10回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第11回：脊髄損傷のリハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第12回：小児疾患のリハビリテーション</td> <td>高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第13回：がんのリハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第14回：リハビリテーションにおける運動学習</td> <td>藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第15回：内部障害のリハビリテーション</td> <td>小川美歌</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：リハビリテーション総論・概論	藤島一郎	第2回：脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真	第3回：脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	西村立	第4回：脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達	第5回：脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	片桐伯真	第6回：神経疾患のリハビリテーション	高橋博達	第7回：摂食嚥下障害のリハビリテーション	國枝顕二郎	第8回：地域リハ・社会的・職業的リハ	片桐伯真	第9回：運動器疾患のリハビリテーション (骨折・切断等)	町田清子	第10回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	藤島一郎	第11回：脊髄損傷のリハビリテーション	片桐伯真	第12回：小児疾患のリハビリテーション	高橋博達	第13回：がんのリハビリテーション	片桐伯真	第14回：リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎	第15回：内部障害のリハビリテーション	小川美歌
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：リハビリテーション総論・概論	藤島一郎																																
第2回：脳損傷のリハ：総論・リスク管理	片桐伯真																																
第3回：脳損傷のリハ：急性期リハと廃用症候群	西村立																																
第4回：脳損傷のリハ：回復期・生活維持期のリハ	高橋博達																																
第5回：脳損傷のリハ：高次脳機能障害・認知症のリハ	片桐伯真																																
第6回：神経疾患のリハビリテーション	高橋博達																																
第7回：摂食嚥下障害のリハビリテーション	國枝顕二郎																																
第8回：地域リハ・社会的・職業的リハ	片桐伯真																																
第9回：運動器疾患のリハビリテーション (骨折・切断等)	町田清子																																
第10回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	藤島一郎																																
第11回：脊髄損傷のリハビリテーション	片桐伯真																																
第12回：小児疾患のリハビリテーション	高橋博達																																
第13回：がんのリハビリテーション	片桐伯真																																
第14回：リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎																																
第15回：内部障害のリハビリテーション	小川美歌																																
アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直していただき、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。																																
評価方法	基本的には定期試験 100%で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。																																

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第2版、千野直一編金原出版
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	理学療法演習Ⅱ
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 5セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている
科目概要	学内演習を通して、高度な知識と技術を習得するために、各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な知識（ベーシックスキル）・技術（動作分析）を学習する。また、実技総合演習により、理学療法現場に必要な臨床能力（問題解決能力、態度・技能）の習得を目指し、知識総合演習により、理学療法現場に対応した知識・思考力（問題解決能力）の確認を行う。 「施設・病院の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。」
到達目標	リハビリテーションの対象を、これまで学習した基礎的な知識と専門的な知識を統合し、発展させて多角的に理解できる。具体的には、臨床理学療法実習Ⅲ・Ⅳに必要な以下の3つの領域を習得する。 1. 知識：標準的な国家試験問題で6割程度解答できる 特に基礎編の知識を応用できる 2. 技術：基本的な理学療法評価項目を挙げ、各種疾患や障害についての知識と結びつけることができる 3. 態度：相手を尊重した言葉使いや行動をとることができる
授業計画	<担当教員> 坂本飛鳥、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、矢部広樹、俵祐一 臨床教授 <u>(すべての内容を全教員で担当する)</u> <授業内容・テーマ等> 第1回コースオリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する。これまで学習した理学療法の基本的な知識を確認する (坂本) 第2回理学療法基礎演習Ⅰ (神経理学療法) 第3回理学療法基礎演習Ⅱ (神経理学療法) 第4回理学療法基礎演習Ⅲ (運動器理学療法) 第5回理学療法基礎演習Ⅳ (運動器理学療法) 第6回理学療法基礎演習Ⅴ (内部障害理学療法) 第7回理学療法基礎演習Ⅵ (内部障害理学療法) 第8回実技総合演習Ⅰ (OSCE) (教員全員+臨床教授) 第9回実技総合演習Ⅱ (OSCE) (教員全員+臨床教授) 第10回実技総合演習Ⅲ (OSCE) (教員全員+臨床教授) 第11回実技総合演習Ⅳ (OSCE) (教員全員+臨床教授) 第12回実技総合演習Ⅴ (OSCE) (教員全員+臨床教授) 第13回実技総合演習Ⅵ (OSCE) (教員全員+臨床教授) 第14回知識総合演習Ⅰ (Computer-Based-Testing : CBT) 第15回知識総合演習Ⅱ (CBT) 第2回～7回までに行ったグループ学習を第8回～13回の実技総合演習で整理し、各領域の理学療法現場に対応した知識・思考力（問題解決能力）を確認する
アクティブラーニング	施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。グループ内で患者役、医療従事者役を設定し、口頭で説明をする・評価をする（実技）など臨床現場を想定してグループ学修を進める。 iPadを活用し、実際に実技の練習などをビデオに撮影し、その動画を確認しながら学生同士がお互いにフィードバックを行うことで、知識や実技向上に努め、学生自身の問題解決能力を養う。 「施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。」

評価方法	<p>口頭試問 (4月～6月中に実施予定:全3回) 40% ・知識確認試験 (7月中旬実施予定) 30% ・OSCE (客観的臨床能力試験) (7月中旬実施予定) 30%</p> <p>* 3回の口頭試問にそれぞれ合格しないと OSCE の受験資格はありません。</p> <p>* 口頭試問・OSCE はルーブリックを使用して到達度を判定します。</p>
課題に対するフィードバック	<p>・口頭試問：1回目：運動器理学療法・2回目：神経理学療法・3回目：内部障害理学療法について試験官であるそれぞれの教員の質問に口頭で説明していただきます。質問内容は、事前に配布した口頭試問用キーワードリストに沿って出題します。そのキーワードの意味だけでなく、<u>臨床の上で他の医療従事者に説明するイメージ</u>で詳細について説明してください。質問内容は臨床の場面を想定して、教員が、リストのキーワードから応用的に出題します。</p> <p>* 回答時間は一人 15 分程度です。服装は：ケーシー、身だしなみは実習時と同様をお願いします。</p> <p>* 合格するまで再試験は繰り返されます。再試験の日時は担当教員の指示に従ってください。</p> <p>・OSCE：3 回の口頭試問に全て合格すると受験資格がもらえます。OSCE 実施日までに口頭試問に合格しなければ、受験資格はありません。</p> <p>試験内容は、神経系疾患、運動器系疾患を想定した模擬患者に理学療法評価を実施します。</p> <p>* 模擬患者の情報については試験実施 1 週間前に掲示します。</p> <p>* OSCE は、臨床理学療法実習Ⅳ前の、知識、技術を向上させることを目的としています。</p> <p>・CBT: PT 治療前問題 (評価実習用) の知識確認試験です。問題は全部で 100 問 (試験時間は 90 分)、選択式問題です。パソコンで実施します。以下問題の割合です。</p> <p>運動系 PT 基礎 (骨、関節、筋、運動学) 12 問 臨床 (整形外科、外科) 10 問 PT (筋骨格系 PT) 10 問</p> <p>神経系 PT 基礎 (神経、感覚) 12 問 臨床 (神経内科、精神) 10 問 PT (神経、筋障害 PT) 10 問</p> <p>内部疾患 PT 基礎 (呼吸循環代謝消化排泄等) 12 問 臨床 (内科) 10 問 PT (呼吸、心臓、代謝等の PT) 10 問</p> <p>その他 応用 (リハ概論・医学、法律、公衆衛生等) 4 問</p>
指定図書	<p>理学療法評価学テキスト 細田多穂監修 南江堂、口頭試問キーワードリスト・国家試験過去問題配布、これまでに履修した科目の指定図書など</p>
参考図書	
事前・事後学修	<p>計画的に自主的な学習を進めてください。計画的、且つ継続的な実技を含む学修を推奨します (原則 1 コマ 40 分)。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の基礎的知識を、確認しながら深めていきます。この科目は、<u>臨床理学療法実習Ⅲと並行して学修する科目</u>となります。また、<u>臨床理学療法実習Ⅳ</u>に出るための知識、技術を習得する前提科目となります。</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：月、木、金曜日 3 限目、17 時～18 時 上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	理学療法演習Ⅲ
科目責任者	田中真希
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 7 セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法実習Ⅴ・Ⅵの実習で担当した症例に関する知識の確認、および各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な評価・治療技術の確認を行い、それらを応用できるようにする。統合と解釈の演習では、症例の理解を通じて、理学療法士として基本的な評価・治療に関する総合的な能力を養い、理解していることを他者に的確に伝える技術を身につける。また、実技総合演習では、臨床現場で必要な能力(論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力)を高め、実践可能なレベルを目指す。
到達目標	臨床理学療法実習Ⅴ・Ⅵにおいて学修した専門的な知識・技術・態度を統合し、表現する 1. 知識：標準的な理学療法対象症例の病態・障害像を統合・解釈し、説明できる 2. 技術：基本的な理学療法評価・治療項目を挙げ、実施できる 3. 態度：相手を尊重した言動・配慮ができる
授業計画	<p><担当教員> 田中真希, 矢倉千昭, 有菌信一, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 俵祐一, 坂本飛鳥, 矢部広樹 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> 第 1 回 オリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する 第 2 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅴ終了後-1 第 3 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅴ終了後-2 第 4 回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法実習Ⅴ終了後-3 ：臨床理学療法実習Ⅴで学んだことを適切に表現することができる。 第 5 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅵ終了後-1 第 6 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法実習Ⅵ終了後-2 第 7 回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法実習Ⅵ終了後-3 ：臨床理学療法実習Ⅵで学んだことを適切に表現することができる</p> <p>第 8 回 実技総合演習(中枢神経系)-1 第 9 回 実技総合演習(中枢神経系)-2 第 10 回 実技総合演習(中枢神経系)-3 第 11 回 実技総合演習(内部障害系)-1 第 12 回 実技総合演習(内部障害系)-2 第 13 回 実技総合演習(運動器系)-1 第 14 回 実技総合演習(運動器系)-2 第 15 回 実技総合演習(運動器系)-3 ：中枢神経系・内部障害系・運動器系の理学療法に必要な臨床能力を習得する</p> <p>実技総合演習時は実習着で出席してください</p>
アクティブラーニング	演習科目
評価方法	実習後の知識・技術確認のため、症例についての報告会、口頭試問、OSCE(Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験)にて6割以上の成績であることが合格条件 ルーブリックを活用する。 知識確認のための症例報告 25%、口頭試問 25%、OSCE50%

課題に対するフィードバック	症例報告会では、学生同士で質疑応答を行い、終了後に担当教員がフィードバックする。 口頭試問では、担当教員が実施後にフィードバックする。 OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) では、終了後に評価教員からのフィードバックの他に、試験課題の実施状況を動画撮影し、全体終了後にフィードバックする。
指定図書	神経系理学療法治療学・内部障害系理学療法治療学・運動器系理学療法治療学・日常生活活動学・機能代償機器学の指定図書
参考図書	実習中に作成した資料・ノートなど
事前・事後学修	原則 40 分を目安に学修する 事前事後学修を事前学修として、実習中から担当症例の統合と解釈について考察をまとめる。 事後学修として、フィードバックを受けた内容についてまとめて復習する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	小児理学療法学
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。
科目概要	子どもの正常発達とその原理、および小児疾患（脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症、二分脊椎）の基礎（病態や障害像）を整理して、理学療法の評価と治療についての基礎理論と技術を教授し、小児理学療法分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理学療法に対する関心を高める（情意） 2. 子どもの正常発達過程とその原理、正常発達と異常発達の相違を論述することができる（認知） 3. 脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症の病態と障害像を理解し、基本的な理学療法評価と治療技術が実施できる（技術） 4. 子どもと接し、コミュニケーションを図り、遊びを促すことができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、その発達理論（反射性階層理論）を理解する① 1-3 章 矢倉千昭</p> <p>第 2 回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、その発達理論（反射性階層理論）を理解する② 4-6 章 矢倉千昭</p> <p>第 3 回：脳性麻痺を持つ子どもの理学療法 脳性麻痺のタイプ特徴、評価と発達指導を理解する① 7-11 章 坂本飛鳥</p> <p>第 4 回：脳性麻痺を持つ子どもの理学療法 脳性麻痺のタイプ特徴、評価と発達指導を理解する② 7-11 章 坂本飛鳥</p> <p>第 5 回：筋ジストロフィー症を持つ子どもの理学療法評価と発達指導を理解する 13-14 章 山内一之</p> <p>第 6 回：重症心身障害を有する子どもの理学療法評価と発達指導を理解する 15-16 章 山内一之</p> <p>第 7 回：子どもとの接し方、遊びや関わり方を学ぶ 坂本飛鳥</p> <p>第 8-9 回：施設見学 坂本・矢倉 こども園の子どもの遊びや保育などの様子を観察し、発達の様子をレポートにまとめる</p> <p>第 10-11 回：施設見学 坂本・矢倉 脳性麻痺などの障害をする子どものリハビリテーションや保育などの様子を観察し、発達の様子をレポートにまとめる</p> <p>第 12-13 回：施設見学 坂本・矢倉 発達障害を有する子どもの遊びや保育などの様子を観察し、発達の様子をレポートにまとめる</p> <p>第 14-15 回：施設見学 坂本・矢倉 重症心身障害を有する方の生活や介護の様子を観察し、障害特徴やケアについてレポートにまとめる</p>
アクティブラーニング	前半は講義と小テストによって学修を進め、後半は施設見学によって子どもの発達や障害の理解、生活介護について学修する。
評価方法	小テスト（講義授業の次回の講義で行う）：20% レポート提出と内容：20% 筆記試験：60%
課題に対す	・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。

るフィード バック	・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	小児理学療法学テキスト（南江堂）
参考図書	田原弘幸（編）理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法 第2版」（神陵文庫）
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワークによる発表準備を行い、事後学修として小テスト、見学したあとにレポートを作成、提出します。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	神経系理学療法治療学
科目責任者	吉本好延
単位数他	2単位(60時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害に対する基本的な理学療法の理論と技術について学習する。中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害を理解し、これらに対する理学療法の理論と技術を学ぶ。評価結果から統合と解釈、問題点の抽出、目標の設定、治療プログラムの立案までの思考プロセスの基礎を身につける。
到達目標	1. 脳卒中の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。 2. 理学療法評価から空間概念図を用いて問題点を整理することができる。 3. 神経疾患、脊髄損傷の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：脳卒中理学療法のオリエンテーション：グループワーク：吉本好延 第2回：脳卒中の急性期理学療法：グループワーク：吉本好延 課題1「脳卒中患者の離床はいつから行うのか？」 キーワード：脳梗塞・脳出血・早期理学療法・ベッドサイド・リスク管理・神経可塑性・ストロークケアユニット・予後予測 第3回：脳卒中の急性期理学療法：課題1の発表：吉本好延 第4回：脳卒中の回復期理学療法：グループワーク：吉本好延 課題2「神経可塑性を促すためには、どんな原則にもとづいて理学療法を行うのか？」 キーワード：神経可塑性・廃用症候群・課題指向型アプローチ・神経生理学的アプローチ・身体活動・回復期リハビリテーション病棟 第5回：脳卒中の回復期理学療法：課題2の発表：吉本好延 第6回：脳卒中の慢性期理学療法：1)：グループワーク：吉本好延 課題3「慢性期の脳卒中患者の転倒を予防するためには、どのような理学療法を行うのか？」 キーワード：転倒・骨折・バランス障害・高次脳機能障害・身体活動・転倒リスクファクター 第8回：脳卒中の慢性期理学療法：課題3の発表：吉本好延 第9回：脳卒中の最新理学療法の実際：ゲストスピーカー 部分負荷トレッドミル歩行、ボツリヌス治療、反復経頭蓋磁気刺激法、FES(体験)など 第10回：脳卒中患者の在宅支援の実際：ゲストスピーカー 地域包括ケアシステム、合併症(転倒・嚥下障害・アパシーなど)、介護負担、介護保険</p> <p>第11回：パーキンソン病の理学療法治療：矢倉千昭 第12回：脊髄小脳変性症の理学療法治療：矢倉千昭 第13回：多発性硬化症の理学療法治療：矢倉千昭 第14回：筋萎縮性側索硬化症の理学療法治療：矢倉千昭 第15回：脊髄損傷の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>*1回を2コマとする</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技はipadで撮影し、視覚的にフィードバックを行う
評価方法	定期試験：80% 課題提出物：20%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う

指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを实践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他 『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	内部障害系理学療法治療学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	2単位(60時間) 理学必修 5セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価し、情報の統合と的確な判断を行なうために必要な専門知識を習得する。本科目では、内部障害系疾患(特に呼吸・循環器系・代謝系疾患, がん)の病態構造を把握しながら、理学療法プログラムの立案・効果の検証までを解説する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 2. 循環器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 3. 代謝系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 4. がん患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>有菌信一・俵祐一・矢部広樹・柳田頼英</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 内部障害系理学療法治療学総論 (有菌・俵) 一内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第2回：呼吸器系理学療法治療学 (1) (有菌・俵) 一病態ならびに障害像の把握と理学療法評価の実践 (COPD)</p> <p>第3回：呼吸器系理学療法治療学 (2) (有菌・俵) 一呼吸器疾患に対する理学療法の実践 (間質性肺炎)</p> <p>第4回：がん患者の理学療法治療学と呼吸器系理学療法治療学 (有菌・俵) 一周術期における理学療法の評価と実践 (周術期)</p> <p>第5回：集中治療領域の呼吸器系理学療法治療学 (有菌・俵) 一人工呼吸器に対する理学療法の実践 (人工呼吸器)</p> <p>第6回：がん患者の理学療法治療学 (有菌・俵) 一化学療法, 緩和ケアにおける理学療法の評価と実践 (Best support care)</p> <p>第7回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵) 一循環器疾患に対する理学療法の実践 (心筋梗塞)</p> <p>第8回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵) 一循環器疾患に対する理学療法の実践 (心不全)</p> <p>第9回：循環器系理学療法治療学 (有菌・俵) 一循環器疾患に対する理学療法の実践 (心臓外科手術) 一心電図の実際</p> <p>第10回：嚥性肺炎に対する理学療法治療学 (俵・有菌)</p> <p>第11回：身体所見の取り方, 呼吸介助法 (有菌・俵)</p> <p>第12回：人工呼吸器 (NPPV) と酸素療法の実際 (有菌・俵)</p> <p>第13回：代謝系理学療法治療学 (1) (矢部) 一病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第14回：代謝系理学療法治療学 (2) (矢部) 一代謝疾患に対する理学療法の実践：運動処方の理論と実際</p> <p>第15回：急性期病院における理学療法治療学 (柳田・有菌)</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	学期末テスト(60%), レポート(40%)にて評価する

課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	内部障害理学療法学テキスト 細田多穂著 南江堂 呼吸・心臓リハビリテーション 居村茂幸監 羊土社
参考図書	
事前・事後学修	循環器疾患，代謝疾患，呼吸器疾患，がんなどをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に運動療法の実際について，事後学習してください
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3513 研究室 時間については，初回授業時に提示します．上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください．講義と実習を組み合わせながら進めていきます。 ユニフォームを着用して下さい。1回は2コマです。

科目名	運動器系理学療法治療学																																
科目責任者	根地嶋 誠																																
単位数他	2単位 (60時間) 理学必修 5セメスター																																
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法プログラムを学習する。理学療法プログラムの種類や方法、原理などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を説明できること、代表的な運動器疾患に対するプログラムの種類を挙げることができること、具体的な方法を説明し実践できること、プログラムの原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。																																
到達目標	1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法プログラムの項目を列挙できる 3. 理学療法プログラムの方法と原理を説明できる 4. 理学療法プログラムを適切な技術と態度で実施できる																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1・2回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第3・4回：下肢疾患に対する理学療法1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第5・6回：下肢疾患に対する理学療法2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第7・8回：下肢疾患に対する理学療法3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第9・10回：下肢疾患に対する理学療法4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第11・12回：頸部体幹疾患に対する理学療法1 (腰痛の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第13・14回：頸部体幹疾患に対する理学療法2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第15・16回：総合演習1 (症例検討：評価)</td> <td>根地嶋，田中</td> </tr> <tr> <td>第17・18回：総合演習2 (症例検討：介入)</td> <td>根地嶋，田中</td> </tr> <tr> <td>第19・20回：中間まとめ</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第21・22回：上肢疾患に対する理学療法1 (腱損傷，肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第23・24回：上肢疾患に対する理学療法2 (腱鞘炎，末梢神経損傷の理学療法アプローチ)</td> <td>根地嶋</td> </tr> <tr> <td>第25・26回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第27・28回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)</td> <td>田中</td> </tr> <tr> <td>第29・30回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)</td> <td>根地嶋</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1・2回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)	根地嶋	第3・4回：下肢疾患に対する理学療法1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)	田中	第5・6回：下肢疾患に対する理学療法2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)	田中	第7・8回：下肢疾患に対する理学療法3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)	根地嶋	第9・10回：下肢疾患に対する理学療法4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)	根地嶋	第11・12回：頸部体幹疾患に対する理学療法1 (腰痛の理学療法アプローチ)	根地嶋	第13・14回：頸部体幹疾患に対する理学療法2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)	根地嶋	第15・16回：総合演習1 (症例検討：評価)	根地嶋，田中	第17・18回：総合演習2 (症例検討：介入)	根地嶋，田中	第19・20回：中間まとめ	根地嶋	第21・22回：上肢疾患に対する理学療法1 (腱損傷，肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)	根地嶋	第23・24回：上肢疾患に対する理学療法2 (腱鞘炎，末梢神経損傷の理学療法アプローチ)	根地嶋	第25・26回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)	田中	第27・28回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)	田中	第29・30回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)	根地嶋
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1・2回：コースオリエンテーション，運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第3・4回：下肢疾患に対する理学療法1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)	田中																																
第5・6回：下肢疾患に対する理学療法2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)	田中																																
第7・8回：下肢疾患に対する理学療法3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第9・10回：下肢疾患に対する理学療法4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第11・12回：頸部体幹疾患に対する理学療法1 (腰痛の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第13・14回：頸部体幹疾患に対する理学療法2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第15・16回：総合演習1 (症例検討：評価)	根地嶋，田中																																
第17・18回：総合演習2 (症例検討：介入)	根地嶋，田中																																
第19・20回：中間まとめ	根地嶋																																
第21・22回：上肢疾患に対する理学療法1 (腱損傷，肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第23・24回：上肢疾患に対する理学療法2 (腱鞘炎，末梢神経損傷の理学療法アプローチ)	根地嶋																																
第25・26回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)	田中																																
第27・28回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)	田中																																
第29・30回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)	根地嶋																																
アクティブラーニング	グループ学修																																
評価方法	レポート15%，小テスト15%，総合演習の遂行状況20%，定期試験50%																																

課題に対するフィードバック	小テストの解説, リアクションペーパーのコメント
指定図書	整形外科リハビリテーション (羊土社)
参考図書	標準整形外科学 (医学書院)
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくこと。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	日常生活活動学の実践
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	2単位 (60 時間) 理学必修 5 セメスター
科目の位置付	DP (4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	寝返り動作、起き上がり動作などの基本動作の介助法、動作獲得のための練習方法、疾患および障害に対する日常生活活動の分析、指導および介助法について実習する。さらに、疾患ごとの機能障害、活動制限の特徴を理解し、具体的な日常生活活動の指導法を学修する。
到達目標	1. 基本動作の動作獲得の指導、日常生活動作の練習、指導法を習得する。 2. 疾患および障害に対する日常生活活動の観察と動作分析に基づいた介助、指導法を習得する。 3. 日常生活活動に関する介助、指導を、適切な接遇の元で実施できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：コースオリエンテーション 矢部広樹 -本科目の全体の流れと、本科目で扱うアクティブ・ラーニングについて理解する</p> <p>第2回：動作介助・指導のスキルアップ 矢部広樹 -寝返り、起き上がり動作の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第3回：動作介助・指導のスキルアップ 矢部広樹 -立ち上がり動作、移乗動作の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第4回：動作介助・指導のスキルアップ 矢部広樹 -身の回り動作における指導の考え方を理解する</p> <p>第5回：動作介助・指導のスキルアップ 矢部広樹 -車椅子の介助法と車椅子操作の指導を修得する</p> <p>第6回：シーティング 俵祐一 -車椅子の採型、症例に合せたシーティングを理解する</p> <p>第7回：車椅子のメンテナンス 矢部・俵 -施設利用者の車椅子を調整する (学外実習)</p> <p>第8回：運動器障害に対する ADL 指導 俵祐一 -関節リウマチに対する ADL 指導を学ぶ</p> <p>第9回：運動器障害に対する ADL 指導 俵祐一 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第10回：中枢神経障害に対する ADL 指導 吉本好延 -脊髄損傷に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第11回：中枢神経障害に対する ADL 指導 吉本好延 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第12回：動作介助・指導のスキルアップ 吉本好延 -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第13回：グループ検討 矢部広樹 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p> <p>第14回：グループ検討 矢部広樹 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p> <p>第15回：グループ発表 矢部広樹 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p> <p>授業は1回2コマで記載しています。</p>
アクティブラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。グループワークは、PC・Moodle を用いて検討・発表します。

評価方法	グループ発表 50%、レポート 50% ルーブリックを用いて評価します
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、Moodle を用いて個別にフィードバックします。 グループ発表と OSCE のフィードバックは、授業内に口頭で行います。
指定図書	『日常生活活動学テキスト』南江堂
参考図書	
事前・事後学修	各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Moodle で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。 各回の授業では、事後学習課題を設けます
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (hiroki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	機能代償機器学の理論
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	1単位 (30時間) 理学必修 5セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	義肢装具を含めた環境や機器などの代償手段により、障害前とは違った新たな代償機能を創造していく学問である。障害を受けた多様な身体機能について、機能代償機器(義肢・装具)によりどのように代償していくのかを、その構造・製作過程・使用方法を学びつつ、理学療法士の役割として求められる適合判定を中心に講義を展開していく。
到達目標	1. 主に身体障害の機能代償として使用する機能代償機器の種類、構造をバイオメカニズムの視点から理解し、説明できる。 2. 義肢や装具をはじめとする機能代償機器の適合判定(チェックアウト)について理解・説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本 根地嶋 金原 片桐</p> <p>第1回: コースオリエンテーション, 機能代償機器学総論 (坂本)</p> <p>第2回: 装具総論: 装具の種類と名称、目的 (坂本)</p> <p>第3回: 下肢装具1(長下肢装具): 構造と機能 (根地嶋)</p> <p>第4回: 下肢装具2(短下肢装具, 膝装具, 免荷装具, 靴型): 構造と機能 (根地嶋)</p> <p>第5回: 体幹装具: 構造と機能 (金原)</p> <p>第6回: 上肢装具: 構造と機能 (金原)</p> <p>第7回: 装具の製作過程 (坂本)</p> <p>第8回: 装具の装着体験 (坂本)</p> <p>第9回: 中間まとめ (坂本)</p> <p>第10回: 切断と義肢総論: 切断と離断, 原因, 手術断端の管理 (坂本)</p> <p>第11回: 断端の管理: 包帯, 合併症予防 (坂本)</p> <p>第12回: 術後の理学療法: 評価, 装着前訓練, 装着訓練 (坂本)</p> <p>第13回: 義肢の製作過程 (片桐)</p> <p>第14回: 義肢の模擬体験: 義手, 義足 (片桐)</p> <p>第15回: まとめ (坂本)</p>
アクティブラーニング	Moodle に参考となる動画や資料をアップし、学生が事前・事後学修でいつでも使用できるようにする。グループ学修を実施し、それぞれの課題に主体的に取り組み、能動的な問題解決能力を養う。
評価方法	定期試験(60%) およびレポート(40%) 定期試験: 授業で学んだことの中から出題する。形式は、記述式問題、選択問題。 レポート: 内容は授業の中で学んだことを基本とし、1200字程度のレポートを作成する。レポートの内容については、第8回の講義の中で発表する。

課題に対するフィードバック	定期試験の解答についてはMoodle で報告する。 レポートのフィードバックは個別にMoodle で行う。
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第3版」(南江堂) 日本リハ医学会・日本整形外科学会監修；「義肢装具のチェックポイント」(医学書院)
参考図書	川村次郎 編集；「義肢装具学」(医学書院) 清水 順市、青木主税監修；「リハビリテーション義肢装具学」(メジカルビュー社)
事前・事後学修	事前・事後学修は原則 40 分です。義肢・装具の種類と構造をつねにチェックして理解してください。Moodle でリーディングリスト、参考資料を提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。事後学修として、Moodle に小テストを提示しますので、どの程度理解できたか確認してください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：月、木、金曜日 3 限目、17 時~18 時 上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	機能代償機器学の実践
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	2単位 (60 時間) 理学必修 6セメスター
科目の位置付	DP (4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	機能代償機器の使用目的や種類をふまえ、適応となる疾患の障害構造を的確に把握し、チェックアウト・アライメントチェック、作用メカニズムなどを学ぶ。演習や実習を通して考察し、実践につながるような講義をすすめる。
到達目標	1. 義肢や装具の適応となる主要な疾患ごとに、機能代償機器の使用法を理解し、実際に扱える。 2. 義肢や装具の適応となる主要な疾患ごとに、適合判定 (チェックアウト) を行うことができるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本、根地嶋、金原、豊田</p> <p>第 1 回: コースオリエンテーション (坂本)</p> <p>第 2 回: 義肢装具作成 (坂本)</p> <p>第 3 回: 義肢装具作成 (坂本)</p> <p>第 4 回: 社会の中の機能代償機器 (坂本)</p> <p>第 5 回: 機能代償機器と理学療法 (坂本)</p> <p>第 6 回: 社会の中の機能代償・理学療法グループ演習と発表 1 (坂本)</p> <p>第 7 回: 整形外科疾患と装具 (根地嶋)</p> <p>第 8 回: 関節リウマチと装具 (金原)</p> <p>第 9 回: グループ演習 (坂本)</p> <p>第 10 回: グループ演習 (坂本)</p> <p>第 11 回: 整形外科疾患: グループ演習と発表 2 (根地嶋)</p> <p>第 12 回: 関節リウマチ: グループ演習と発表 3 (金原)</p> <p>第 13 回: 義肢の要点 (坂本)</p> <p>第 14 回: 大腿義足のチェックアウトの要点 (各アライメントの調整、異常歩行) (根地嶋)</p> <p>第 15 回: 大腿義足チェックアウト: グループ演習と発表 4 (根地嶋)</p> <p>第 16 回: 下腿義足のチェックアウトの要点 (各アライメントの調整、異常歩行) (坂本)</p> <p>第 17 回: 下腿義足チェックアウト: グループ演習と発表 5 (坂本)</p> <p>第 18 回: 脳卒中と装具 (坂本)</p> <p>第 19 回: 自助具作成実習 1 (金原)</p> <p>第 20 回: 自助具作成実習 2 (金原)</p> <p>第 21 回: 脳卒中と装具: グループ演習と発表 6 (坂本)</p> <p>第 22 回: 装具の要点 (坂本)</p> <p>第 23 回: 下肢装具装着体験実習 1 (坂本)</p> <p>第 24 回: 下肢装具装着体験実習 2 (坂本)</p> <p>第 25 回: 下肢装具装着体験実習 3 (坂本)</p> <p>第 26 回: 模擬義足装着体験実習 1 (豊田)</p> <p>第 27 回: 模擬義足装着体験実習 2 (豊田)</p> <p>第 28 回: 模擬義足装着体験実習 3 (豊田)</p> <p>第 29 回: 自助具作成実習 3 とグループ発表 7 (金原)</p> <p>第 30 回: 義肢装具の要点まとめ (坂本)</p>
アクティブラーニング	Moodle に参考となる動画や資料をアップし、学生が事前・事後学修でいつでも使用できるようにする。グループ学修を実施し、それぞれの課題に主体的に取り組み、能動的な問題解決能力を養う。

評価方法	<p>レポート (40%)・グループ発表 (30%)・定期試験 (30%)</p> <p>レポート：内容は授業の中で学んだことを基本とし、1200 字程度のレポートを作成する。レポートの内容については、第 16 回の講義の中で発表する。</p> <p>グループ発表：全 7 回グループプレゼンテーションを実施する。ルーブリックを用いた評価基準をもとに、各回ごとに評価し、7 回の平均点を判結果とする。</p> <p>定期試験：授業で学んだことの中から出題する。形式は、記述式、選択問題。</p>
課題に対するフィードバック	<p>レポートのフィードバックは個別に Moodle で行う。</p> <p>グループ発表のフィードバックは授業内に必要に応じて補足する。</p> <p>定期試験の解答については Moodle で報告する。</p>
指定図書	<p>高田治実監修；「義肢装具学」(羊土社)</p> <p>細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第 3 版」(南江堂)</p>
参考図書	<p>清水 順市、青木主税監修；「リハビリテーション義肢装具学」(メジカルビュー社)</p>
事前・事後学修	<p>事前・事後学修は原則 40 分です。義肢・装具の種類と構造をつねにチェックして理解してください。Moodle でリーディングリスト、参考資料を提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。事後学修として、Moodle に小テストを提示しますので、どの程度理解できたか確認してください。</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3518 研究室</p> <p>時間等：月、木、金曜日 3 限目、17 時~18 時</p> <p>上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	理学療法治療技術特論
科目責任者	金原一宏
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 8 セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法における治療テクニックの理論を理解し、実施方法を体験し、治療技術の向上を図ることができる。
到達目標	神経系理学療法、運動器系理学療法、内部障害系理学療法の治療技術に加え、最新の理学療法治療技術にも注目し、今後の臨床を視野に入れ、理学療法における治療技術の向上を目的とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：関節に対する徒手療法 1 歴史、神経生理、基本原理についての概要を知る 金原一宏</p> <p>第 2 回：関節に対する徒手療法 2 上肢・下肢の評価と手技について、体験する 金原一宏</p> <p>第 3 回：神経筋促通法(Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Techniques : PNF) 1 開発の歴史、経緯、神経生理、基本原理についての概要を知る 杉浦 武</p> <p>第 4 回：PNF2 上下肢・体幹の基本パターンの確認と神経生理学的確認事項(促通と抑制)について 杉浦 武</p> <p>第 5 回：英語による理学療法介入技術についてを体験する 坂本飛鳥</p> <p>第 6 回：小児理学療法アプローチ 概要と手技について知る 坂本飛鳥</p> <p>第 7 回：小児における呼吸理学療法の評価手技について、学習し体験する 背戸佑介、有菌信一</p> <p>第 8 回：小児における呼吸理学療法の治療手技について、学習し体験する 背戸佑介、有菌信一</p> <p>第 9 回：中枢神経系アプローチ 1 ボバースアプローチの歴史、神経生理、基本原理についての概要を知る ボバースアプローチの評価について 鈴木寛之</p> <p>第 10 回：中枢神経系アプローチ 2 ボバースアプローチの評価と手技について 鈴木寛之</p> <p>第 11 回：終末期における理学療法 1 中村和美</p> <p>第 12 回：終末期における理学療法 2 中村和美</p> <p>第 13 回：認知運動療法 認知運動療法の概要と評価方法を知る 山下裕太郎</p> <p>第 14 回：認知運動療法の治療技術 山下裕太郎</p> <p>第 15 回：吸引技術 有菌信一</p> <p>理学療法治療手技を中心に演習をするため、動きやすい服装で参加すること。</p>
アクティブラーニング	授業計画を確認し、事前にすべき内容を把握し実践しておくこと。
評価方法	レポート 70%、課題提出物 30%
課題に対するフィードバック	講義終了時に確認し、フィードバックします。

指定図書	なし
参考図書	
事前・ 事後学修	詳細は、講義の始めに伝える。講義は、実技を取り入れて行うため、これまでのテキストから各治療体系を確認しておくこと。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	地域理学療法学の理論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。
科目概要	地域で生活する対象者(障害者・高齢者)に対する理学療法に関わる項目(関連制度・法規, 対象疾患, 生活環境, 予防, 地域包括ケア)について学修する。地域リハビリテーション・地域理学療法概念, 歴史, 現状, 課題を理解するとともに, 理学療法士の役割や関連職種との連携・協働について学び, 地域社会に求められる理学療法について考える。
到達目標	1. 地域リハビリテーション・地域理学療法に関連する項目について理解し, 説明できる 2. 地域理学療法の実践現場や対象者の特徴を理解し, 現状や課題について説明できる 3. 地域社会に求められる理学療法・理学療法士を自身の将来像と重ね合わせて説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回: コースオリエンテーション, 学修の準備 矢倉千昭</p> <p>第 2 回: 学修の準備 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し, グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2 穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。 <p>第 3 回: 地域リハビリテーションの考え方, 制度, 関連職種との連携 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 4 回: 地域リハビリテーションの考え方, 制度, 関連職種との連携 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 5 回: 各サービスにおける理学療法 矢倉千昭</p> <p>介護老人保健施設, 特別養護老人ホーム, 訪問リハビリテーション, 通所リハビリテーション, デイサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 6 回: 各サービスにおける理学療法 矢倉千昭</p> <p>介護老人保健施設, 特別養護老人ホーム, 訪問リハビリテーション, 通所リハビリテーション, デイサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 7 回: 地域リハビリテーションの実際 柴本千晶</p> <p>聖隷デイサービスセンターの活動から学ぶ</p> <p>第 8 回: 地域包括ケア, 介護予防事業と予防給付, 介護給付 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 9 回: 地域包括ケア, 介護予防事業と予防給付, 介護給付 矢倉千昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 10 回: 予防理学療法概念 矢倉千昭</p> <p>第 11 回: 予防理学療法の実践 矢倉千昭</p> <p>第 12 回: 生活環境概論 (生活環境改善の手法, 福祉用具) 田中真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 13 回: 生活環境概論 (生活環境改善の手法, 福祉用具) 田中真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 14 回: 地域リハビリテーションの実際 (障害別, 障害者スポーツ) 田中真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 15 回: 地域リハビリテーションの実際 (障害別, 障害者スポーツ) 田中真希</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション, まとめ

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生はPCで資料を見ながら授業に参加する。 ・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。
評価方法	定期試験 30%, 小テスト 10%, ポートフォリオ 50%, 授業態度 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（監）「地域リハビリテーション学テキスト」（南江堂）
参考図書	重森健太（編）「地域理学療法学」（羊土社）
事前・ 事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504 研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	地域理学療法学の実践
科目責任者	田中真希
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 6セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	地域で生活する理学療法の対象者(障害者・高齢者)の自立支援のための生活環境整備や社会参加、介護予防について、障害者総合支援法や介護保険制度など多角的な視点から学修する。症例検討や事例検討を行いながら、人的・物的環境整備や医療・介護の連携(地域連携・地域包括ケアシステム)についての理解を深める。また、超高齢化社会の課題である地域の介護予防事業についても、施設の課題解決において主体的に関与し、実践的な内容を提案または実施することを目的とした授業である。
到達目標	1. 生活環境整備の意義と実践する上で必要な知識・理論を理解し、対象者における住環境整備の具体的な方法を理解する 2. 症例検討や事例検討を行いながら、人的・物的環境整備や医療・介護の連携についての実践例から具体的な方法を理解する 3. 地域の施設の課題に対し、主体的に行動し、実践的な調査から解決策を立案・実施または提案できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員></p> <p>第1回：オリエンテーション 田中真希・矢倉千昭・吉本好延・矢部広樹 グループワークの実施方法の説明と住環境整備の実践課題設定 課題抽出と解決策の立案と提案の方法・報告書の書き方</p> <p>第2回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-1 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の状況把握・データ分析</p> <p>第3回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-2 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題抽出</p> <p>第4回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-3 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の立案</p> <p>第5回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-4 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の提案</p> <p>第6回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-5 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の実践</p> <p>第7回：要介護者の住環境および生活の実態-1 田中・矢倉・吉本・矢部 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)入所者の生活把握と課題抽出</p> <p>第8回：要介護者の住環境および生活の実態-2 田中・矢倉・吉本・矢部 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)入所者の生活把握と課題抽出</p> <p>第9回：更衣・整容動作が困難な要介護者の住環境整備-1 吉本好延 グループワーク・課題に対する解決策の立案</p> <p>第10回：更衣・整容動作が困難な要介護者の住環境整備-2 吉本好延 プレゼンテーション・解決策の提案</p> <p>第11回：排泄・入浴動作が困難な要介護者の住環境整備-1 矢部広樹 グループワーク・課題に対する解決策の立案</p> <p>第12回：排泄・入浴動作が困難な要介護者の住環境整備-2 矢部広樹 プレゼンテーション・解決策の提案</p> <p>第13回：食事・趣味活動が困難な要介護者の住環境整備-1 田中真希 グループワーク・課題に対する解決策の立案</p> <p>第14回：食事・趣味活動が困難な要介護者の住環境整備-2 田中真希 プレゼンテーション・解決策の提案</p> <p>第15回：まとめ 田中・矢倉・吉本・矢部 地域施設への提案・プレゼンテーション</p> <p>各回で担当グループを決め、学内と地域の施設(浜松市の老人福祉センター)などで授業を行う。フィールドワークを実施するため、動きやすい服装(ポロシャツなど)で出席してください。</p>

アクティブ ラーニング	地域理学療法学の理論および高齢期理学療法学で学んだことを活かし、主体的に学ぶ。 住環境整備：グループワークで検討する症例(事例)を検索・収集する 介護予防事業：授業内で立案・検討した内容(インタビュー・体力測定・運動プログラムなど)を対象者(施設利用者)や施設職員に提案(できれば実施)する、実践形態とする。 具体的には、PCを用いて検索・資料作成、プレゼンテーション、動画プログラムの作成、などを実践する。
評価方法	グループワーク参加度 25%、フィールドワーク参加度 25%、活動報告書(レポート)50%
課題に対する フィード バック	立案した内容を学生および担当教員間で検討し、フィードバックし合う。 対象者(施設利用者)や施設職員に実施または提案する際に、教員が監督者として立会い、終了後にフィードバックする。
指定図書	野村歡・橋本美芽著、「OT・PTのための住環境整備論 第2版」 三輪書店
参考図書	重森健太編集、「PT・OT ビジュアルテキスト地域理学療法学 第1版」 羊土社 その他や参考書および文献は授業内で紹介する
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する 事前学修として、各自で文献検索および症例検討や事例検討を行い、説明できるように PC を用いてプレゼンテーションの資料作成や練習をしておく。 事後学修として、各自の活動内容は PC を用いて報告書(レポート)にまとめて提出する。 また、フィードバックを受けた内容についてもまとめて復習しておく。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	高齢期理学療法学																		
科目責任者	矢倉千昭																		
単位数他	1単位(15時間) 理学必修 6セメスター																		
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																		
科目概要	疾病予防、転倒・骨折、認知症の予防など、高齢者の健康維持・増進は社会的な課題となっている。本授業では、高齢者の身体的・心理的な特徴を踏まえ、理学療法評価とアプローチについて学修し、高齢者に対する実践的な身体・精神機能と能力評価を実施する。																		
到達目標	1. 高齢者の身体的な特徴、生理・心理的な特徴を理解する 2. 高齢期に発生しやすい代表的な疾患および老年症候群の病態を理解する 3. 科学的根拠に基づいて適切な理学療法評価とアプローチを選択できる																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション、授業計画の確認・計画 -科目全体の流れを把握し、授業計画を立てる、グループワークの準備</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第2回：高齢者の特徴 -グループワーク：「高齢者」の特徴</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第3回：高齢者の特徴 -グループ発表、ディスカッション：「高齢者」の特徴</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第4回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第5回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 -グループ発表、ディスカッション：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第6回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第7回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第8回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループ発表、ディスカッション：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：コースオリエンテーション、授業計画の確認・計画 -科目全体の流れを把握し、授業計画を立てる、グループワークの準備	矢倉千昭	第2回：高齢者の特徴 -グループワーク：「高齢者」の特徴	矢倉千昭	第3回：高齢者の特徴 -グループ発表、ディスカッション：「高齢者」の特徴	矢倉千昭	第4回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭	第5回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 -グループ発表、ディスカッション：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭	第6回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭	第7回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭	第8回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループ発表、ディスカッション：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回：コースオリエンテーション、授業計画の確認・計画 -科目全体の流れを把握し、授業計画を立てる、グループワークの準備	矢倉千昭																		
第2回：高齢者の特徴 -グループワーク：「高齢者」の特徴	矢倉千昭																		
第3回：高齢者の特徴 -グループ発表、ディスカッション：「高齢者」の特徴	矢倉千昭																		
第4回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭																		
第5回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 -グループ発表、ディスカッション：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭																		
第6回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭																		
第7回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループワーク：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭																		
第8回：高齢者の疾患と老年症候群に対する評価とプログラムの立案 -グループ発表、ディスカッション：①転倒・骨折、②認知症、③生活習慣病	矢倉千昭																		
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解してテーマから重要なキーワードを抽出、グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員に提出し、教員から学生に配信する。 																		
評価方法	授業態度 40%、課題提出 60%																		
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。 																		

指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的・心理学的特徴（若年者との相違）を事前に学習してください ・要介護を誘発しやすい症状・疾患に対する理学療法士の実際の関わりを事後学習してください
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分）</p> <p>場所：3504 研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	スポーツ理学療法学																		
科目責任者	根地嶋 誠																		
単位数他	1単位 (15時間) 理学選択8 Semester																		
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																		
科目概要	本科目では、スポーツを実践している対象者に、スポーツ復帰から予防を含めた適切な理学療法が提供できるようになるために、スポーツ領域における理学療法士の役割や、必要な知識および技術について理解することを目的とする。スポーツ現場および選手に対する理学療法士の姿勢、スポーツによる外傷の特徴、スポーツ外傷予防のための方法、スポーツ外傷の特性を踏まえたエクササイズなどの介入方法について学ぶことで、キャリアデザインに活かす。																		
到達目標	1. スポーツで生じる傷害の概要を説明できる 2. スポーツ現場で行われるメディカルチェックを説明できる 3. スポーツ現場で行われるトレーニングを説明できる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション スポーツ理学療法概論</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック1 上肢、体幹のメディカルチェック</td> <td>(齋藤和快)</td> </tr> <tr> <td>第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック2 下肢のメディカルチェック</td> <td>(齋藤和快)</td> </tr> <tr> <td>第4回：アスレティックリハビリテーション1 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)</td> <td>(松本武士)</td> </tr> <tr> <td>第5回：アスレティックリハビリテーション2 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)</td> <td>(松本武士)</td> </tr> <tr> <td>第6回：アスレティックリハビリテーション3 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第7回：アスレティックリハビリテーション4 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> <tr> <td>第8回：スポーツ傷害の病態1 スポーツで生じる傷害の知識の整理</td> <td>(根地嶋)</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：コースオリエンテーション スポーツ理学療法概論	(根地嶋)	第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック1 上肢、体幹のメディカルチェック	(齋藤和快)	第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック2 下肢のメディカルチェック	(齋藤和快)	第4回：アスレティックリハビリテーション1 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)	(松本武士)	第5回：アスレティックリハビリテーション2 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)	(松本武士)	第6回：アスレティックリハビリテーション3 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)	(根地嶋)	第7回：アスレティックリハビリテーション4 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)	(根地嶋)	第8回：スポーツ傷害の病態1 スポーツで生じる傷害の知識の整理	(根地嶋)
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回：コースオリエンテーション スポーツ理学療法概論	(根地嶋)																		
第2回：スポーツ現場におけるメディカルチェック1 上肢、体幹のメディカルチェック	(齋藤和快)																		
第3回：スポーツ現場におけるメディカルチェック2 下肢のメディカルチェック	(齋藤和快)																		
第4回：アスレティックリハビリテーション1 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (1)	(松本武士)																		
第5回：アスレティックリハビリテーション2 上肢、体幹のアスレティックリハビリテーション (2)	(松本武士)																		
第6回：アスレティックリハビリテーション3 下肢のアスレティックリハビリテーション (1)	(根地嶋)																		
第7回：アスレティックリハビリテーション4 下肢のアスレティックリハビリテーション (2)	(根地嶋)																		
第8回：スポーツ傷害の病態1 スポーツで生じる傷害の知識の整理	(根地嶋)																		
アクティブラーニング	プレゼンテーション (グループ学習)																		
評価方法	小テスト 30%、レポート 35%、課題学習 35%																		

課題に対するフィードバック	小テストの解説
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	上肢、体幹、下肢それぞれの解剖学、運動学の知識が必要であるため、各回の前に 40 分程度確認しておく。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法学臨床推論演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2 単位 (60 時間) 理学必修 6 セメスター
科目の位置付	DP (6) 保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	対象者の状態をリハビリテーションの評価により理解し、根拠に基づく基本的なリハビリテーション技術を選択ができるようになるため、小グループによるアクティブ・ラーニングを実践する。理学療法の主対象となる中枢神経疾患、運動器系疾患、内部障害系疾患の臨床事例をベースとしたシナリオに基づき、理学療法における臨床推論を実践的に学習し、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得する。
到達目標	1. 理学療法士を志す学生としてのモラルと責任感、コミュニケーション能力、および自ら考える力を身につける 2. 対象疾患や病態、理学療法評価を実施するうえで必要な知識を収集し、情報収集、検査測定を計画、そこで得た情報を統合して問題点抽出および目標設定する 3. 対象者の疾患や病態、理学療法治療を実施するうえで必要な知識を収集し、理学療法評価をもとに理学療法プログラムを立案する
授業計画	担当：吉本好延、有菌信一、根地嶋誠、俵 祐一、金原一宏、坂本飛鳥、田中真希、矢部広樹、※全て 2 時限連続の講義とする。 ※アクティブ ラーニング (学生の能動的学習形態) にて講義を展開する。 第 1～7 回：実習前 (臨床理学療法実習Ⅳ) 学修、第 8～15 回：実習後学修 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：実習前コースオリエンテーション 意義と目的 吉本好延 第 2 回：実習時の接遇について 金原一宏 第 3 回：クリニカルクラークシップと 2:1 モデル 吉本好延 第 4 回：実技練習 1：ROM-T 演習 根地嶋誠・坂本飛鳥 第 5 回：空間関連図の書き方・カルテの読み方 根地嶋誠・田中真希 第 6 回：実技練習 2：MMT 演習 有菌信一・俵 祐一 第 7 回：実習資料集の作り方 (ポートフォリオ) 矢部広樹 第 8 回：実習後コースオリエンテーション 臨床推論の概要と実際 吉本好延 第 9 回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法 (1) 吉本好延：発表・GW 第 10 回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法 (2) 吉本好延：発表・GW 第 11 回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法 (3) 吉本好延：発表・GW 第 12 回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法 (4) 吉本好延：発表・GW 第 13 回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法 (5) 吉本好延：発表・GW 第 14 回：各ゼミ発表：全教員⇒フィードバック後、最終レポート提出 第 15 回：外部 OSCE 全員 第 9 回から第 14 回では、運動器系・中枢神経系・内部障害系疾患に対して模擬患者 (ペーパーペーシエント：臨床理学療法実習Ⅳの担当患者を 1 例設定し、理学療法における臨床推論を実施する。
アクティブ ラーニング	・1 セッション 2-3 コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	課題提出物：30% 実技試験：30% 報告会：30% 授業態度：10%

課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	臨床理学療法実習Ⅳ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	4単位 (180時間) 理学必修 6セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法評価実習Ⅰで学んだ理学療法の治療(基礎理論と治療技術)を踏まえ、臨床推論に基づく臨床実践を実施する。理学療法の対象に、理学療法評価(検査測定結果から統合と解釈を行い、適切な問題点の抽出およびゴール設定)を実習指導者のもと模倣・実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情意: 医療人としての態度を学ぶ 2. 認知: 検査測定結果などの情報を分析し、ICFに基づき問題点を抽出する 患者の背景や取り巻く環境、評価結果などを考慮し、目標を設定する 3. 運動技能: 検査測定のオリエンテーションを行う 検査測定を正確に実施し、信頼性の向上につとめる 担当症例の空間概念図をもとに、実習指導者とディスカッションする
授業計画	<p><担当教員名> 俵 祐一, 矢倉千昭, 有菌信一, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 田中真希, 坂本飛鳥, 矢部広樹 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> 評価実習(理学療法評価の技術と臨床推論を学ぶ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 指導者とともに診療に参加(同行)するクリニカルクラークシップを基本とする ② 2人の学生に対し、1人の指導者が指導する、2:1モデルの形態とする ③ 診療の一部として指導監視のもと、理学療法評価を行い、統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を行う ④ 実施する内容は、理学療法(評価)を実施している場面を見学させる、一部の検査測定を模倣・実施させる、一部の臨床推論を説明する ⑤ 技術習得過程は、説明および実際の方法を見学・指導され理学療法評価の一部を実施する ⑥ 学生同士で練習をする ⑦ オリエンテーションは、主に実習指導者が行い、学生が一部を模倣する ⑧ 実習でのリスク管理は実習指導者が行い、学生は見学の中でリスク管理を学ぶ ⑨ 実習日誌に体験したこと、技術的な覚え書きなどを記録する ⑩ チェックリストに何をどれだけ行ったかを記録する
アクティブラーニング	臨床現場でのクリニカルクラークシップを実施する
評価方法	臨床実習遂行状況(20%) 各種提出物(空間関連図など)(30%) 実習後報告会および口頭試問(50%) により、合格基準を満たすことで単位を認める。※臨床理学療法実習ガイドブックを参照
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して指導者からの直接的指導を受ける ・実習後報告会にて教員より適宜指導を受ける
指定図書	臨床理学療法実習ガイドブック
参考図書	<p>新・徒手筋力検査法: 津山直一・他訳(協同医書出版)</p> <p>ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭・他著(南山堂)</p> <p>理学療法評価学テキスト: 細田多穂著 南江堂</p>
事前・事後学修	代表的な疾患および実習施設にて、担当する可能性がある疾患の理学療法評価や適切な問題点の抽出及びゴール設定について整理しておくこと。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィスアワー	<p>科目責任者: 俵祐一(リハビリテーション学部理学療法学科)</p> <p>研究室: 3507</p> <p>時間帯: 授業の際に提示します</p>

科目名	臨床理学療法実習Ⅲ
科目責任者	吉本 好延
単位数他	3 単位 (135 時間) 理学必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目では、学外実習において、対象患者に理学療法に必要な情報収集、検査・測定を計画し、学外実習で得た情報を統合して問題点の抽出を行うことで、患者の障害の状態を的確に把握する。
到達目標	理学療法の対象に対する理学療法評価において、一部の検査測定および臨床推論を指導者監視の下、見学・模倣できる。
授業計画	<p><担当教員名></p> <p>吉本好延、矢倉千昭、有菌信一、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①情報収集および検査・測定技術の習得</p> <p>必要となる情報収集と適切な検査・測定項目を選択できる。また検査・測定の実施にあたってその意義と方法を理解し、客観的で信頼性のある検査・測定技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理</p> <p>実習の遂行にあたって、患者（施設利用者）のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。また、二次性障害（廃用症候群）の可能性と要因を挙げられる。</p> <p>③患者（施設利用者）への説明</p> <p>実施する検査・測定に関して、患者（施設利用者）に対して適切に説明できる。</p> <p>④問題点の抽出</p> <p>2001年にWHOにより提唱された国際生活機能分類（ICF；心身機能・身体構造、活動、参加）に基づき、問題点の抽出を行う。さらに、問題点相互の関連性を説明できる。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図の作成</p> <p>空間概念図を作成し、その発表ができる。</p> <p>毎週水曜日(毎週1日×15回) 15週間に渡って実習を行う。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2：1実習による学生間で課題解決を図る
評価方法	<p>臨床実習遂行状況 (20%)</p> <p>各種提出物 (空間関連図など) (30%)</p> <p>報告会 (30%)</p> <p>教員面談による口頭試問 (20%)</p> <p>により、合格基準を満たすことで単位を認める。</p>

課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う。
指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学習する ・体験患者の情報をもとに、根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学習する
オフィスアワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	臨床理学療法実習Ⅴ
科目責任者	金原一宏
単位数他	6単位(270時間) 理学必修 7セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者(利用者)を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 金原一宏、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹(すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。 ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。(解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する) ③デイリーノート(体験したこと、技術的な覚え書きなど)を作成する。 ④チェックリスト(何をどれだけおこなったか)を作成する。 ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p>
アクティブラーニング	学生間で課題解決を図る

評価方法	1) 実習状況 50% 2) 実習後プレゼンテーション（臨床理学療法実習Ⅴ報告書（空間概念図））30% 3) 口頭試問 20%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	臨床理学療法実習Ⅵ
科目責任者	有菌信一
単位数他	6単位 (270時間) 理学必修 7セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 有菌信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地鳴誠、吉本好延、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等> ①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。 ②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。（解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する） ③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。 ④チェックリスト（何をどれだけおこなったか）を作成する。 ⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・1:1実習による学生間で課題解決を図る
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)実習状況 2)実習後プレゼンテーション（臨床理学療法総合実習Ⅱ報告書（空間概念図）） 3)口頭試問
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3503 研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	卒業研究 I	
科目責任者	俵 祐一	
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 6 セメスター	
科目の位置付	DP (4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	臨床疑問や課題に対して、客観的な視点から探求することを目的に、理学療法に必要な理学療法研究に関する方法論を学習する。研究の方法論では、問題点の抽出から文献検索、仮説の立案、データ測定、結果の解釈、考察といった研究の流れに沿ってそれぞれに必要な知識の習得と理学療法に必要な倫理事項の確認を行い、リハビリテーション専門職を志す者としての冷静な態度、深い洞察力、高い倫理観を裏付ける広い教養を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における研究活動の意義を理解する 2. 研究疑問を具現化し、その解明の手順(研究計画書の作成)を理解する 3. 理学療法研究を実践するにあたっての倫理感を養う 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：コースオリエンテーション 研究法総論 (1)</p> <p>第2回：研究法総論 (2) 学習要領の確認</p> <p>第3回：研究を行うにあたっての心構えと哲学</p> <p>第4回：研究疑問の見つけ方 (1) 量的研究と研究デザイン</p> <p>第5回：研究疑問の見つけ方 (2) 質的研究と研究デザイン</p> <p>第6回：文献レビューの仕方 (1) 研究の概念枠組み</p> <p>第7回：文献レビューの仕方 (2) 研究の限界</p> <p>第8回：文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 文献検索の方法とまとめ方</p> <p>第9回：文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 文献の読み方</p> <p>第10回：理学療法研究に必要な統計学 (1) 代表値とバラツキ</p> <p>第11回：理学療法研究に必要な統計学 (2) データの読み方</p> <p>第12回：理学療法研究に必要な統計学 (3) 様々な統計学的手法</p> <p>第13回：理学療法研究に必要な倫理学 (1) 倫理哲学</p> <p>第14回：理学療法研究に必要な倫理学 (2) 倫理申請手順</p> <p>第15回：大学院教育への発展</p>	<p><担当教員名></p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>俵 祐一</p>
アクティブラーニング	グループワーク等を予定しています	
評価方法	研究計画書の作成：50%、課題提出物：30%、授業態度：20%	

課題に対するフィードバック	研究計画書の作成指導を通して進めていきます
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」(神稜文庫)
参考図書	対馬栄輝、他著「医療系データのとり方・まとめ方」(東京図書)
事前・事後学修	学修の成果はグループ指導教員との卒業研究テーマ、研究計画の作成に反映されます
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3507 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法学総合演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 8 セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	理学療法士国家試験レベルの演習を通して、理学療法士に必要な知識を統合するとともに、臨床的な視点による問題解決能力を身につけることで、これまで学習してきた理学療法学を包括的にまとめる。
到達目標	1. 理学療法士国家試験レベルの理学療法学の知識を修得することができる。 2. 理学療法士に必要な知識を統合することができる。 3. 臨床的な視点によって問題解決することができる。
授業計画	<p><担当教員名> (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>吉本好延、矢倉千昭、有菌信一、根地嶋誠、金原一宏、俵祐一、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹、</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション - シラバス確認・スケジュールの説明 吉本</p> <p>第2回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 根地嶋</p> <p>第3回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 田中</p> <p>第4回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 吉本</p> <p>第5回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) 吉本</p> <p>第6回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 有菌</p> <p>第7回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 田中</p> <p>第8回 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 坂本</p> <p>第9回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) 吉本</p> <p>第10回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 矢部</p> <p>第11回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 矢倉</p> <p>第12回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 坂本</p> <p>第13回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 根地嶋</p> <p>第14回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原</p> <p>第15回 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原</p>
アクティブラーニング	・知識到達度確認試験は最終的な目標点数が示されており、目標点数を到達できるように学生は自身の学修プランを教員と共同で計画する
評価方法	・授業態度 : 10% ・知識到達度確認試験 : 90%
課題に対するフィードバック	・各時期の獲得点数から現在の学修状況と今後の学修プランを確認し、プランの妥当性やプランの実行可能性についてフィードバックを行う。

指定図書	『国試の達人 運動解剖生理学編』 IPEC、 『国試の達人 臨床医学編』 IPEC 『国試の達人 理学療法編』 IPEC
事前・ 事後学修	計画的にグループ学習を進めてください。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の知識を、確認しながら深めていきます。
オフィス アワー	3509 教室, 毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	卒業研究Ⅱ
科目責任者	有菌信一
単位数他	2単位 (60時間) 理学必修 8セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法研究の意義と、科学的・論理的な研究方法を修得する。具体的には、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集・解析、考察を行い、その研究結果を卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法研究の意義を理解する。 2. 一連の研究の流れ学び、各自の研究テーマに沿って研究を実施する。 3. 研究結果を考察し、口述発表する。 4. 卒業論文にまとめて報告する。
授業計画	<p><担当教員></p> <p>有菌信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地嶋誠、吉本好延、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>本科目は、担当指導教員によるゼミ形式で行うが、必要に応じて全体でも開講する。</p> <p>研究内容、および研究方法は、指導教員の指導を受けて決定すること。</p> <p>卒業研究の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法研究の意義と目的 ・研究疑問の発見 ・文献レビュー ・研究テーマの明確化 ・研究計画の作成 (倫理的考察も含む) ・研究方法 (対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など) ・データ収集 ・データ解析と処理 ・考察 ・発表 ・論文執筆 <p>*卒業研究発表会を11月上旬頃に行う</p> <p>*卒業論文の提出は11月末頃とする</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	<p>履修状況：30%</p> <p>論文内容：35%</p> <p>口頭発表：35%</p>

課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」(神稜文庫)
参考図書	
事前・事後学修	文献検討を十分に行って、研究に臨んでください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。

科目名	医療倫理学																		
科目責任者	田中真希																		
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8セメスター																		
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。																		
科目概要	先端医療としての臓器移植や遺伝子治療だけでなく、日常の医療現場における倫理的諸問題について考えるとき、人間の行為の倫理的側面について深く理解し、「何をすべきか」という問いに答える判断が必要となる。そのための意思決定の行動指針となる「倫理原則」や「ケアの倫理」などについて学びながら、事例検討を通じて医療倫理について理解を深める。																		
到達目標	1. 医療全般における倫理的問題に気づくことができる 2. 医療に関する倫理的推論を行い、分析することができる 3. 医療現場において求められる患者に共感する心、態度など倫理的配慮ができる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション 生命倫理学とは？バイオエシックス、生命倫理</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第2回：生命誕生をめぐる諸問題 生殖医療、人工妊娠中絶、着床前診断などの倫理的問題</td> <td style="text-align: right;">坂本飛鳥</td> </tr> <tr> <td>第3回：ホスピスと生命の終末期をめぐる問題 ケアの倫理に基づくホスピスケアの思想から学ぶ</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第4回：専門職者としての倫理観の形成 リハビリテーション専門職の倫理観の育成と形成</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第5回：患者を支える・共感する 患者と医療専門職との関係</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第6回：症例または事例報告および検討① 経験症例の報告および検討</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第7回：症例または事例報告および検討② 経験症例の報告および検討</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第8回：医療倫理学と理学療法 理学療法士の倫理観</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション 生命倫理学とは？バイオエシックス、生命倫理	田中真希	第2回：生命誕生をめぐる諸問題 生殖医療、人工妊娠中絶、着床前診断などの倫理的問題	坂本飛鳥	第3回：ホスピスと生命の終末期をめぐる問題 ケアの倫理に基づくホスピスケアの思想から学ぶ	矢部広樹	第4回：専門職者としての倫理観の形成 リハビリテーション専門職の倫理観の育成と形成	田中真希	第5回：患者を支える・共感する 患者と医療専門職との関係	田中真希	第6回：症例または事例報告および検討① 経験症例の報告および検討	田中真希	第7回：症例または事例報告および検討② 経験症例の報告および検討	田中真希	第8回：医療倫理学と理学療法 理学療法士の倫理観	田中真希
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回：オリエンテーション 生命倫理学とは？バイオエシックス、生命倫理	田中真希																		
第2回：生命誕生をめぐる諸問題 生殖医療、人工妊娠中絶、着床前診断などの倫理的問題	坂本飛鳥																		
第3回：ホスピスと生命の終末期をめぐる問題 ケアの倫理に基づくホスピスケアの思想から学ぶ	矢部広樹																		
第4回：専門職者としての倫理観の形成 リハビリテーション専門職の倫理観の育成と形成	田中真希																		
第5回：患者を支える・共感する 患者と医療専門職との関係	田中真希																		
第6回：症例または事例報告および検討① 経験症例の報告および検討	田中真希																		
第7回：症例または事例報告および検討② 経験症例の報告および検討	田中真希																		
第8回：医療倫理学と理学療法 理学療法士の倫理観	田中真希																		
アクティブラーニング	グループワークの形式を取り入れ、生命倫理・医療倫理の課題を探索し、事前学修（臨床理学療法実習で経験した症例や見学症例のうち、倫理的配慮が必要であった症例について概念図を作成）で学んだことを授業内でプレゼンテーションまたはディスカッションをする。																		
評価方法	概念図・レポート 50%，プレゼンテーション・ディスカッション参加度 50%																		

課題に対するフィードバック	プレゼンテーションまたはディスカッション後に、学生同士での質疑応答を行い、教員からのフィードバックをする。 各回のリアクションペーパーはMoodle を用いて提出してもらい、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	エリザベス キューブラー・ロス著、「死ぬ瞬間」と死後の生 中公文庫
参考図書	
事前・事後学修	原則 40 分を目安に学修する 事前学修では、臨床理学療法実習で経験した症例や見学症例のうち、倫理的配慮が必要であった症例について概念図を作成する。 事後学修では、症例についてフィードバックを受けた内容を含め、概念図を再考しレポートを作成する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	理学療法教育学
科目責任者	有菌信一
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	保健医療福祉領域において、自らの専門性を自覚し、その責務を果たすことが求められます。理学療法士は、理学療法学生や若手理学療法士の教育を担い、また新しい評価方法や治療法の開発などによって理学療法の発展に寄与しなければなりません。そのためには、理学療法の教育指導の理念と方法を身につけることが大切です。本授業では、理学療法士の教育方法、特に臨床実習における学生指導についての基礎を学び、リハビリテーションの専門職業人として将来を展望した理学療法教育への関心を深めます。
到達目標	1. 医学教育の動向、課題と方略を概説することができる 2. 理学療法の教育方法(CBT、PBL、OSCEなど)を概説することができる 3. 理学療法士の臨床実習における学生指導についての基礎理論と基本技能を修得する
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>有菌信一, 吉本好延 第1回: 医学教育の動向、理学療法士の現状と教育の課題を考える (有菌信一, 吉本好延) 第2回: 理学療法士の大学教育におけるカリキュラムプランニングを学ぶ: 教育理念、教育目標、教育課程、授業、成績評価 (有菌信一, 吉本好延) 第3-4回: 医学教育の教育手法: CBT、PBL、OSCE、ロールプレイなどを学習し、演習を行う (有菌信一, 吉本好延) 第5-6回: 臨床実習における教育方法について学び、また自身の体験からより良い実習指導のあり方を検討する (有菌信一, 吉本好延) 第7-8回: 理学療法士の「生涯学習」とキャリア形成について学ぶ (有菌信一, 吉本好延)
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで解決・発表する 授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの発表と内容: 40% レポート提出と内容: 60%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の途中で教員が随時補足していく 他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし(講義時に資料を配布する)
参考図書	
事前・事後学修	事前に関係論文を配布するので、事前に読んで授業に出席すること。
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(shinichi-a@seirei.ac.jp)でアポイントを取ってください。

科目名	リーダーシップ論																		
科目責任者	矢倉千昭																		
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8 Semester																		
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。																		
科目概要	本学の学びにおいて、保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすように成長することが目標となります。リーダーシップとは、自己を成長させ改革を成し遂げる(ようとする)能力です。授業では、リーダーシップの基礎的知識について学び、各分野でリーダーシップを発揮している理学療法士からの講義が行われます。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップとは何かを考え、自分なりの考え方を述べるができる 2. 医療現場に必要なリーダーシップを考え、自身の行動を見つめ自己を成長させる 3. リハビリテーション専門職として、将来を展望した生涯学習への関心を深め自己研鑽する 																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：リーダーシップとは何か、特性、役割と行動</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第2回：理学療法教育・研究分野におけるリーダーシップ</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第3回：病院・施設におけるリーダーシップ</td> <td>新屋順子</td> </tr> <tr> <td>第4回：病院・施設におけるリーダーシップ</td> <td>春藤健支</td> </tr> <tr> <td>第5回：病院・施設におけるリーダーシップ</td> <td>山内一之</td> </tr> <tr> <td>第6回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ</td> <td>和泉謙二</td> </tr> <tr> <td>第7回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ</td> <td>山下裕太郎</td> </tr> <tr> <td>第8回：病院経営におけるリーダーシップ</td> <td>秦野吉徳</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：リーダーシップとは何か、特性、役割と行動	矢倉千昭	第2回：理学療法教育・研究分野におけるリーダーシップ	矢倉千昭	第3回：病院・施設におけるリーダーシップ	新屋順子	第4回：病院・施設におけるリーダーシップ	春藤健支	第5回：病院・施設におけるリーダーシップ	山内一之	第6回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	和泉謙二	第7回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	山下裕太郎	第8回：病院経営におけるリーダーシップ	秦野吉徳
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第1回：リーダーシップとは何か、特性、役割と行動	矢倉千昭																		
第2回：理学療法教育・研究分野におけるリーダーシップ	矢倉千昭																		
第3回：病院・施設におけるリーダーシップ	新屋順子																		
第4回：病院・施設におけるリーダーシップ	春藤健支																		
第5回：病院・施設におけるリーダーシップ	山内一之																		
第6回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	和泉謙二																		
第7回：静岡県理学療法士会におけるリーダーシップ	山下裕太郎																		
第8回：病院経営におけるリーダーシップ	秦野吉徳																		
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・教員やゲストスピーカーの所属、社会活動について概要を説明し、授業前に調べる。 ・受講した内容をリアクションペーパーに記載、提出する。 																		
評価方法	リフレクションペーパーによる授業への取り組み、参加度の評価：30% レポート提出と評価：70%																		

課題に対するフィードバック	・質問には随時受け，リアクションペーパーの内容についてメール，次回の授業で回答する.
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の授業テーマについて、調べ考えて授業に出席する.
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください.

科目名	組織管理学																		
科目責任者	田中真希																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択 8 セメスター																		
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	理学療法部門だけでなく、病院・施設全体でのリスク管理について学習することで、関連職種の専門性を生かした連携・協働を実践するための知識と手法を学習する。理学療法士がチームの一員としてどのような役割を果たすことができるのかを理解し、組織管理として医療事故を防止するために必要な知識と手法を習得することを目標とする。																		
到達目標	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。 1. 理学療法部門の管理・運営について概説できる 2. 医療事故の概要について説明できる 3. 医療事故の原因を理解するとともに、チーム医療を認識し、チームの一員として事故の再発予防に努めるための対策の立案ができる																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：理学療法部門の管理運営の概要 管理・運営の基礎</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：理学療法部門の管理運営の実際 保険診療・診療記録業務・守秘義務・患者情報管理</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：医療事故の概要とヒューマンエラー 発生しやすい医療事故とヒューマンエラー</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：医療事故発生時・発生後の対応 インシデント・アクシデント報告書の意義</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：感染症予防対策 理学療法施行上注意が必要な感染症と感染症対策</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：医療機関・施設における転倒・転落予防対策 理学療法士が遭遇する発生頻度の高い転倒・転落事故と予防対策</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：医療事故の事例検討 実際に発生した医療事故の分析と医療事故防止策の立案</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：医療従事者の健康管理の概要・実際 組織の取り組み、産業理学療法</td> <td style="text-align: right;">田中真希</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：理学療法部門の管理運営の概要 管理・運営の基礎	田中真希	第 2 回：理学療法部門の管理運営の実際 保険診療・診療記録業務・守秘義務・患者情報管理	田中真希	第 3 回：医療事故の概要とヒューマンエラー 発生しやすい医療事故とヒューマンエラー	田中真希	第 4 回：医療事故発生時・発生後の対応 インシデント・アクシデント報告書の意義	田中真希	第 5 回：感染症予防対策 理学療法施行上注意が必要な感染症と感染症対策	田中真希	第 6 回：医療機関・施設における転倒・転落予防対策 理学療法士が遭遇する発生頻度の高い転倒・転落事故と予防対策	田中真希	第 7 回：医療事故の事例検討 実際に発生した医療事故の分析と医療事故防止策の立案	田中真希	第 8 回：医療従事者の健康管理の概要・実際 組織の取り組み、産業理学療法	田中真希
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1 回：理学療法部門の管理運営の概要 管理・運営の基礎	田中真希																		
第 2 回：理学療法部門の管理運営の実際 保険診療・診療記録業務・守秘義務・患者情報管理	田中真希																		
第 3 回：医療事故の概要とヒューマンエラー 発生しやすい医療事故とヒューマンエラー	田中真希																		
第 4 回：医療事故発生時・発生後の対応 インシデント・アクシデント報告書の意義	田中真希																		
第 5 回：感染症予防対策 理学療法施行上注意が必要な感染症と感染症対策	田中真希																		
第 6 回：医療機関・施設における転倒・転落予防対策 理学療法士が遭遇する発生頻度の高い転倒・転落事故と予防対策	田中真希																		
第 7 回：医療事故の事例検討 実際に発生した医療事故の分析と医療事故防止策の立案	田中真希																		
第 8 回：医療従事者の健康管理の概要・実際 組織の取り組み、産業理学療法	田中真希																		

アクティブ ラーニング	グループワークの形式を取り入れ、保健医療福祉領域における組織管理の課題を探求し、事前学修（臨床理学療法実習で経験した組織管理の体制、医療安全や感染対策、転倒・転落予防、発生時の対応マニュアル・報告書などについて概念図を作成）で学んだことを授業内でプレゼンテーションまたはディスカッションをする。
評価方法	概念図・レポート 50%、プレゼンテーション・ディスカッション参加度 50%
課題に対する フィード バック	プレゼンテーションまたはディスカッション後に、学生同士での質疑応答を行い、教員からのフィードバックを実施する。 各回のリアクションペーパーはMoodle を用いて提出してもらうものとし、質問や意見については個別に返信する。
指定図書	亀田メディカルセンター リハビリテーション科 リハビリテーション室編集、 「リハビリテーションリスク管理ハンドブック 改訂第2版」 MEDICAL VIEW
参考図書	参考図書は授業内で紹介する
事前・ 事後学修	原則 40 分を目安に学修する 事前学修では、臨床理学療法実習で経験した組織管理の体制、医療安全や感染対策、転倒・転落予防、発生時の対応マニュアル・報告書などについて概念図を作成する。 事後学修では、フィードバックを受けた内容を含め、概念図を再考し、レポートを作成する。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（maki-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	医療経済学
科目責任者	金原一宏
単位数他	1単位(15時間) 理学選択 8セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	医療経済学を通して医療の需要と供給、費用と効果に関する考え方を学び、医療経済学の視点から医療、リハビリテーション、健康増進・疾病予防の効果について学習する。
到達目標	1. 医療経済学の考え方を通して日本の国民医療費について説明することができる。 2. 医療経済学の考え方に基づく分析結果の意味を説明することができる。 3. 医療、リハビリテーション、健康増進・疾病予防の効果を説明することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>金原一宏</p> <p>第1回：オリエンテーション、医療経済学の基礎 －医療経済学の基本的な考え方を学ぶ</p> <p>第2回：国民医療費 －国民医療費の現状と課題を学ぶ</p> <p>第3回：医療経済学の評価 －医療経済学の分析法を学ぶ</p> <p>第4回：医療経済学とリハビリテーション －医療経済学によるリハビリテーションを考える</p> <p>第5回：医療経済学とヘルスプロモーション －医療経済学による健康増進・疾病予防を考える</p> <p>第6回：病院におけるリハビリテーションの管理会計</p> <p>第7回：病院におけるリハビリテーションの管理会計</p> <p>第8回：まとめ</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで解決・発表する 授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	課題発表：50% レポート：50%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の途中で教員が随時補足していく 他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う

指定図書	なし
参考図書	
事前・ 事後学修	課題の発表があります。資料を作成したら、事前に担当教員の指導を受けてください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3506 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (kazuhiko-k@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	2単位 (90時間) 理学選択 3・4・5・6・7・8セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	異なる文化に触れ、生活習慣の異なる地域を訪れるだけでなく、リハビリテーション機関及び専門施設において、本学教員（引率教員）の指導によるクリニカルクラークシップ（CCS）での実習を行い、当該地域における理学療法技術を体験し、学修することを目的とする。合わせて、異なる文化圏の医療について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 2. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設において実習を行い、実際に技術を体験し、日本との理学療法との違いについて理解する。 3. 異なる文化圏の医療について理解を深める。
授業計画	<p><担当教員名>坂本 <授業内容・テーマ等></p> <p>1. 事前研修 (10コマ) 研修する国の言語について習得するだけでなく、当該地域の文化、歴史について学ぶ。 また、当該地域の保健医療福祉、リハビリテーション特に理学療法の歴史と現状について事前に学習する。 (中国理学療法実習の場合)</p> <p>第1・2回目 (坂本) 中国語講座 医療現場で使用する言葉を学ぶ。 日本のリハビリテーション医療や理学療法について知識の再確認を英語・中国語を交え学修する。 ・医療現場でよく使用される言葉やフレーズを学ぶ。 ・英語で（自分の言葉で）日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明できる。</p> <p>第3回目 (坂本) 中国語講座 中国の文化・医療について学修する。 ・中国の文化・医療について知る。 ・日本との違いについて知る。</p> <p>第4・5回目 (坂本) 中枢神経障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・中枢神経障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる（実技も含む）。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。</p> <p>第6・7回目 (坂本) 中国語講座 運動器障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・運動器障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる（実技も含む）。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。</p> <p>第8・9回目 (坂本) 疼痛障害、熱傷障害について学修する。また、評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・疼痛障害と熱傷障害について理解する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・問題点・プログラムについて説明し、 ・実践できる（実技も含む）。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。 <p>第10回目（坂本）</p> <p>日本の文化・医療を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化・医療・福祉について、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 異文化圏における医療機関・施設にてクリニカルクラークシップでの実習 現地の医療機関で本学教員の指導のもと実施する（5日間）（引率教員） 3. 異文化圏における医療機関・施設における体験実習（3日間）（引率教員） 4. 課題レポート（海外体験実習報告書）の作成・実習で学んだことの内省（2コマ） 報告会を実施する（2コマ）（坂本） <p>実習協力施設：中国 重慶 第三軍医大学 西南病院 中国 広州 中山附属第一病院 広東省労災リハビリテーション病院</p> <p>事後研修 1. グループワーク 研修で学んだことについてディスカッション（PBL） 2. 報告会</p>
アクティブ ラーニング	<p>グループ学修を通して、渡航先の文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集し、Moodle を使用してeポートフォリオを作成していく。また、事前学習で集めた情報から、問題点を導き、解決策についてディスカッションを行う。PBL などを利用して、問題点や課題に対しての解決策を立案し、実践していく。自らの意見を構築していく。また、柔軟性、積極性、行動力などグローバル人材に必要な人間力を養う。</p>
評価方法	<p>事前研修：10% 実習内容：50% 課題提出物（レポート プレゼンテーション）：40%</p> <p>①事前学修の内容（10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席日数 ・自己紹介が英語または中国語でできる ・中国の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation ・日本の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation ・中枢神経障害・運動器障害・熱傷についての知識確認テスト・口頭試問 ・各障害について評価実技テスト（英語・中国語を使用する） <p>成績は上記の内容について責任科目者と担当者が判定する。</p> <p>②Learning Contract の内容（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に学修目的（Learning Objective）、方法（Method）欄を記載し、実習実施時にその内容について実習指導者（本学の引率教員）の評価を受ける。 <p>帰国後に責任科目者に提出する。 成績は責任科目者と担当者により判定する。</p> <p>③提出レポート（20%）プレゼンテーション（20%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：課題について以下の例を参考に記載する ・現地のリハビリテーション医療やリハビリテーション技師の役割について学んだこと ・この研修の経験をいかし、国際的な視野で、今後理学療法士が取り組むべき役割、課題、学びについて ・今後医療従事者に必要とされるグローバルな人材とは <p>成績は上記の内容について責任科目者が判定する。</p>
課題に対する フィード バック	<p>フィードバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。</p>
指定図書	<p>指定図書なし 臨床実習ハンドブック、事前学習時の配布資料使用、eポートフォリオ</p>
事前・ 事後学修	<p>英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日15分から30分英会話学習を行ってください。又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学修を行って下さい。渡航先の文化、医療情勢、医療機関について調査し、ポートフォリオを作成してください。</p>

オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：月、木、金曜日3限目、17時~18時 上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目名	臨床マネジメント論																																
科目責任者	伊藤 信寿																																
単位数他	2単位 (60時間) 作業必修 8セメスター																																
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。																																
科目概要	<p>4年間の総まとめとして、獲得した知識・技能の整理と統合をはかり不足している知識を補完する。また作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、運営等について学び、臨床実践に備える。また、実習で作成したレポート等を活用し、MTDLPに関する理解を深める。</p> <p>さらに昨今の作業療法界においてトピックスになっている話題や、臨床現場で活躍されている実践を学び、今後の作業療法界を担っていく一員として必要な知識について学修する。</p> <p>2年生や3年生の専門科目の授業にサポート的に参加し、臨床実習で得た知識や技能を後輩に教授する過程において再確認する。</p> <p>国家試験に向けて自分に合った勉強方法や対策を確認する。</p>																																
到達目標	<p>(1)作業療法の実践に必要な制度、組織、管理・運営等を理解することができる。</p> <p>(2)様々な分野における作業療法の実践を理解することができる。</p> <p>(3)MTDLPについて理解し、概要を説明することができる。</p> <p>(4)臨床実習等で獲得した知識や技能を後輩に教授することができる。</p> <p>(5)国家試験の自分に合った勉強方法を獲得する。</p>																																
授業計画	<p>担当教員：伊藤信寿、鈴木達也、建木健、中島ともみ、藤田さより 泉良太、田島明子</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 オリエンテーション</td> <td style="text-align: right;">伊藤</td> </tr> <tr> <td>第2回 組織、管理運営について</td> <td style="text-align: right;">鈴木・建木</td> </tr> <tr> <td>第3回 教育について</td> <td style="text-align: right;">鈴木・建木</td> </tr> <tr> <td>第4回 制度・社会について</td> <td style="text-align: right;">鈴木・建木</td> </tr> <tr> <td>第5回 生活行為マネジメントについて (概論2コマ)</td> <td style="text-align: right;">泉・建木・鈴木・中島</td> </tr> <tr> <td>第6回 生活行為マネジメントについて (演習2コマ)</td> <td style="text-align: right;">泉・建木・鈴木・中島</td> </tr> <tr> <td>第7回 特別講義：地域のデイケアにおける作業を基盤とした作業療法の実践</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第8回 特別講義：精神科領域における地域生活支援</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第9回 特別講義：就労支援について</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第10回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第11回 後輩指導：身体障害領域の授業において指導</td> <td style="text-align: right;">田島・泉・建木・鈴木</td> </tr> <tr> <td>第12回 後輩指導：精神障害領域の授業において指導</td> <td style="text-align: right;">藤田</td> </tr> <tr> <td>第13回 国家試験対策講義</td> <td style="text-align: right;">藤田・伊藤</td> </tr> <tr> <td>第14回 国家試験対策講義</td> <td style="text-align: right;">藤田・伊藤</td> </tr> <tr> <td>第15回 国家試験対策講義</td> <td style="text-align: right;">藤田・伊藤</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業計画：各回 80分×2コマ</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回 オリエンテーション	伊藤	第2回 組織、管理運営について	鈴木・建木	第3回 教育について	鈴木・建木	第4回 制度・社会について	鈴木・建木	第5回 生活行為マネジメントについて (概論2コマ)	泉・建木・鈴木・中島	第6回 生活行為マネジメントについて (演習2コマ)	泉・建木・鈴木・中島	第7回 特別講義：地域のデイケアにおける作業を基盤とした作業療法の実践	ゲストスピーカー	第8回 特別講義：精神科領域における地域生活支援	ゲストスピーカー	第9回 特別講義：就労支援について	ゲストスピーカー	第10回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性	ゲストスピーカー	第11回 後輩指導：身体障害領域の授業において指導	田島・泉・建木・鈴木	第12回 後輩指導：精神障害領域の授業において指導	藤田	第13回 国家試験対策講義	藤田・伊藤	第14回 国家試験対策講義	藤田・伊藤	第15回 国家試験対策講義	藤田・伊藤
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回 オリエンテーション	伊藤																																
第2回 組織、管理運営について	鈴木・建木																																
第3回 教育について	鈴木・建木																																
第4回 制度・社会について	鈴木・建木																																
第5回 生活行為マネジメントについて (概論2コマ)	泉・建木・鈴木・中島																																
第6回 生活行為マネジメントについて (演習2コマ)	泉・建木・鈴木・中島																																
第7回 特別講義：地域のデイケアにおける作業を基盤とした作業療法の実践	ゲストスピーカー																																
第8回 特別講義：精神科領域における地域生活支援	ゲストスピーカー																																
第9回 特別講義：就労支援について	ゲストスピーカー																																
第10回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性	ゲストスピーカー																																
第11回 後輩指導：身体障害領域の授業において指導	田島・泉・建木・鈴木																																
第12回 後輩指導：精神障害領域の授業において指導	藤田																																
第13回 国家試験対策講義	藤田・伊藤																																
第14回 国家試験対策講義	藤田・伊藤																																
第15回 国家試験対策講義	藤田・伊藤																																

アクティブラーニング	実技的なことに対して後輩指導する グループワークを行う
評価方法	各授業後におけるレポート（50%）、国家試験模擬テスト（小テスト）の結果（50%）
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの質問に対して解説する
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する 事後学修：授業で学んだことや配布資料をまとめる
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	卒業研究
科目責任者	中島ともみ
単位数他	4単位（120時間） 作業必修 8セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	4年間の専門的な授業や臨床実習を通して、疑問に思ったことや調べたいことを研究テーマとして、その疑問を解決する研究方法を学習し実施する。各担当教員のもと、研究課題の立案、研究課題の立案、研究方法の確立・実施、研究課題の考察を深め、発表及び論文作成を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問を明確にすることが出来る 2. 研究疑問に対して解決する方法を期日までに実施する事が出来る。 3. 研究結果をまとめることが出来る 4. 研究結果を発表する事が出来る
授業計画	<p><担当教員名> 中島ともみ、新宮尚人、宮前珠子、伊藤信寿、田島明子、泉良太、建木健、藤田さより、鈴木達也</p> <p><授業内容・テーマ等> 前年度学生の卒業論文集を用いたクリティカルシンキング 研究疑問の設定 文献レビュー 研究目的と研究テーマの明確化 研究方法の決定 研究計画の作成 研究実施 研究分析 考察 論文執筆 発表用プレゼンテーションの作成 口頭発表（発表7分 質疑3分）</p> <p>卒業論文提出 11月2日（金） 卒業論文発表 11月8日（木）～9日（金） 1～3年生も参加</p>

アクティブラーニング	グループ学修、ピアインストラクション、フィールドワーク等のいずれかをゼミ単位で実践
評価方法	研究論文 70%、研究への取り組み 20%、口頭発表 10% 指定図書
課題に対するフィードバック	研究への取り組み、発表内容に関しての指導教員からのコメントを行う
指定図書	鎌倉矩子・宮前珠子・清水 一：作業療法士のための研究法入門. 三輪書店, 東京, 1997
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	自らの関心領域に関する文献を収集し、熟読, 文献リストを作成すること (1本 80分×文献 10本以上)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	精神障害作業療法評価学	
科目責任者	藤田 さより	
単位数他	1 単位 (45 時間) 作業必修 6 セメスター	
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	精神科作業療法に関連する評価について臨床事例をベースとしたシナリオに基づき実践的に学習する。評価に基づいて具体的に作業療法プログラムを立案し、最終的に臨床実習で応用できる技術の習得を目指す	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業活動の特性を、作業療法の治療・援助に応用する視点について説明できる ・精神系作業療法におけるプログラム立案のポイントについて説明できる。 ・模範的に作業療法プログラムを実践できる 	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第1回：オリエンテーション、プログラム計画立案	藤田さより
	第2回：プログラム計画立案	藤田さより
	第3回：プログラム計画立案	藤田さより
	第4回：プログラム計画発表・準備	藤田さより
	第5回：コミュニケーション	藤田さより
	第6回：コミュニケーション	藤田さより
	第7回：集団の利用	藤田さより
	第8回：集団の利用	藤田さより
	第9回：プログラム立案演習①	藤田さより
	第10回：プログラム立案演習①	藤田さより
	第11回：プログラム立案演習②	藤田さより・新宮尚人
	第12回：プログラム立案演習②	藤田さより・新宮尚人
	第13回：プログラム立案演習③	藤田さより・新宮尚人
	第14回：プログラム立案演習③	藤田さより・新宮尚人
	第15回：プログラム立案演習④	藤田さより・新宮尚人
	第16回：プログラム立案演習④	藤田さより・新宮尚人
	第17回：プログラム立案演習⑤	藤田さより・新宮尚人
	第18回：プログラム立案演習⑤	藤田さより・新宮尚人
	第19回：生活技能訓練 (SST) について	藤田さより
	第20回：生活技能訓練 (SST) について	藤田さより
	第21回：臨床実習に関する講義	藤田さより
	第22回：臨床実習に関する講義	藤田さより
第23回：授業のまとめ	藤田さより	

アクティブ ラーニング	この科目はPBLと演習を行います。
評価方法	レポート 100%
課題に対する フィード バック	毎回のフィードバックペーパーに書かれた内容について次回の講義で回答致します。レポートの内容には評価・コメントをつけて返却致します。
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法. 三輪書店 山根寛他：ひとと集団・場- 集まり、集めることの利用-. 三輪書店
参考図書	デニスグリーンバーガー『うつと不安の認知療法練習帳』創元社
事前・ 事後学修	精神障害領域の作業療法では集団作業療法が多く実践されます。そのためこの授業では主に集団作業療法を企画、実践したいと思いますので、集団についての要点および集団作業療法に関する実践例等の文献を事前・事後に読むようにしてください【事前事後学修 40 分】
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	発達障害作業療法評価学
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達障害領域における対象疾患について学習する。また、身体障害、知覚・認知障害、感覚統合障害等、疾患や障害に特有の適切な評価に必要とされる知識と検査の実施方法について学習する。さらに、実践事例を通して、評価結果を解釈し、まとめ、総合的な視点から問題点を抽出し、適切に目標設定することを学習する。
到達目標	(1) 発達障害領域における対象疾患について簡単に説明できる。 (2) 発達障害領域における評価の目的、種類、およびその手順を説明できる。 (3) 発達障害領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>伊藤信寿</p> <p>第 1 回：発達障害領域における作業療法</p> <p>第 2 回：脳性まひについて</p> <p>第 3 回：重症心身障害について</p> <p>第 4 回：知的発達障害について</p> <p>第 5 回：自閉症スペクトラムについて</p> <p>第 6 回：学習障害について</p> <p>第 7 回：注意欠如・多動性障害について</p> <p>第 8 回：進行性筋ジストロフィーについて</p> <p>第 9 回：骨関節疾患について</p> <p>第 10 回：二分脊椎について</p> <p>第 11 回：高次脳機能障害について</p> <p>第 12 回：作業療法評価</p> <p>第 13 回：作業療法評価</p> <p>第 14 回：作業療法評価</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。
評価方法	定期試験 (60%), 事前課題 (20%), ポートフォリオ (20%)
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを Moodle を用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業の中で回答する。 ポートフォリオに対しフィードバックを行う。
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
参考図書	イラストでわかる発達障害の作業療法 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる (30 分程度) 事後学修：授業の内容をポートフォリオに整理する (10 分程度)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	老年期障害作業療法評価学
科目責任者	鈴木達也
単位数他	1単位（30時間） 必修 5セメスター
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	老年期に特徴的な身体、精神、認知面に関する生理的变化や環境面の評価法について学ぶ。作業療法の分野をはじめ標準化された評価法だけでなく、観察や面接から得られる情報を基に対象者が生きてきた人生を知り、作業療法プログラムを展開できることを学ぶ。施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	1. 高齢者の心身機能について特徴を把握する事が出来る 2. 評価法の名前とその目的を理解し使用できる 3. 評価法の種類（主観的、客観的、観察法・質問法、自己記入式等）を理解し使用できる 4. 得られた結果を解釈しプログラム立案に役立てることが出来る
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度 <担当：鈴木> 第2回：高齢者への面接と統合的評価法 <担当：鈴木> 第3回：作業療法理論に基づく評価法、生活史とQOL <担当：鈴木> 第4回：高齢者の意思、興味、価値、作業バランス <担当：鈴木> 第5回：ADL, 行動面の評価 <担当：鈴木> 第6回：認知機能・精神機能面の評価 <担当：鈴木> 第7回：高齢者の身体機能面の評価 <担当：鈴木> 第8回：人的・物理的環境の評価 <担当：鈴木> 第9回：介護負担・介護予防・健康増進 <担当：鈴木> 第10回：終末期における評価 <担当：鈴木> 第11回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践 <担当：鈴木・建木> 第12回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践 <担当：鈴木・建木> 第13回：高齢者の集団作業療法計画と実践 <担当：鈴木・建木> 第14回：高齢者の集団作業療法計画と実践 <担当：鈴木・建木> 第15回：施設実習報告とまとめ <担当：鈴木></p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>
アクティブラーニング	グループワーク、PBL、施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
評価方法	定期試験 50% レポート 20%、ポートフォリオ 30%

課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント、返却
指定図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学4 老年期」作業療法全書，協同医書出版
参考図書	山田孝編集：高齢期障害領域の作業療法，中央法規 宮口秀樹監修：認知症を持つ人への作業療法アプローチ、メディカルビュー 高齢者のその人らしさを支える作業療法、文光堂
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.

科目名	日常生活活動技術学
科目責任者	中島ともみ
単位数他	2 単位 (75 時間) 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	基本的日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。 福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	①ADL とは何かを述べる事ができる。 ②ADL・IADL 評価方法を述べる事ができる。 ③ADL・IADL の作業療法 (直接的アプローチ・間接的アプローチ) を述べる事ができる。 ④ADL・IADL の指導方法を述べる事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> *****ADL 基礎***** 第 1 回：ADL の定義と評価方法</p> <p>第 2～7 回：起居 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ (環境調整)</p> <p>第 8～11 回：座位 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ (環境調整)</p> <p>第 12～15 回：食事 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ (環境調整)</p> <p>第 16～21 回：移動・移乗 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第 22～23 回：更衣・入浴 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第 24 回：コミュニケーション 動作分析と直接的アプローチ間 接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第 25 回：ポジショニングの介助</p> <p>第 26～27 回：FIM</p> <p>第 28 回：住宅改修</p> <p>*****疾患別ADL***** 第 29～32 回： 内部疾患 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 吸引喀痰の技術習得も含む</p> <p>第 33～37 回： 頸髄損傷 リウマチ 頸部骨折</p> <p>第 38 回：まとめ</p>
アクティブ ラーニング	動作分析ではグループワークを基本とする。住宅改修では、PBL を用いる。

評価方法	<p>レポート 50% 定期試験 50%</p> <p>ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。</p> <p>PBL レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。</p>
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・生田宗博 「ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店 ・菅原 洋子(著、編集) 社団法人 日本作業療法士協会(監修) 作業療法学全書 作業治療学身体障害 協同医書出版
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤利之 「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際」医学書院 ・作業療法のとらえかた ・石原義恕/今野孝彦「これでできるリウマチの作業療法」南江堂 ・黒川幸雄 /大西秀明「理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル」文光堂
事前・事後学修	<p>40分～80分</p> <p>動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後には、学習内容をポートフォリオにまとめる事。</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3516 研究室 時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	作業療法学内総合実習
科目責任者	鈴木達也
単位数他	1単位(45時間) 必修 6セメスター
科目の位置付	獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法介入のリーズニングについて説明できる 2. 作業療法の介入理論について選択できる 3. 対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる 4. 評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる
授業計画	<p>担当教員：鈴木達也、伊藤信寿、田島明子、泉良太、建木健、藤田さより、中島ともみ <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション <担当：鈴木> 第2回：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法 <担当：鈴木> 第3回：学内演習1（面接） <担当：全教員> 第4回：学内演習1（面接） <担当：全教員> 第5回：学内演習1（面接） <担当：全教員> 第6回：作業遂行分析の視点とAMPS <担当：鈴木> 第7回：作業遂行分析の視点とAMPS <担当：鈴木> 第8回：クリニカルリーズニングと理論選択 <担当：鈴木> 第9回：クリニカルリーズニングと理論選択 <担当：鈴木> 第10回：学内演習2（作業遂行観察と評価） <担当：全教員> 第11回：学内演習2（作業遂行観察と評価） <担当：全教員> 第12回：学内演習2（作業遂行観察と評価） <担当：全教員> 第13回：介入方法の選択とエビデンス <担当：鈴木> 第14回：介入方法の選択とエビデンス <担当：鈴木> 第15回：学内演習3（プログラム立案と介入） <担当：全教員> 第16回：学内演習3（プログラム立案と介入） <担当：全教員> 第17回：学内演習3（プログラム立案と介入） <担当：全教員> 第18回：評価結果の解釈 <担当：鈴木> 第19回：回復期リハ病棟の実践とマネジメント <担当：鈴木、特別講師> 第20回：事例報告のまとめかた <担当：全教員> 第21回：事例検討 <担当：全教員> 第22回：事例検討 <担当：全教員> 第23回：作業療法実践の実際 <担当：鈴木></p>
アクティブラーニング	グループワーク学習・学内実習 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。

評価方法	レポート50%、ポートフォリオ50%
課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	齋藤佑樹：作業で語る事例集, 医学書院 吉川ひろみ：COPM・AMPS スターティングガイド、医学書院
参考図書	澤田辰徳：作業で結ぶマネジメント, 医学書院 吉川ひろみ・齋藤さわ子：COPM・AMPS 実践ガイド、医学書院
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 ・これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・グループで相談し演習計画や評価の練習を行きましょう
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ																																																														
科目責任者	藤田 さより																																																														
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 5セメスター																																																														
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																																														
科目概要	小グループによる PBL チュートリアル、講義、演習を通じ、精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と具体的な作業療法アプローチについて学習する。関連理論や作業活動を軸とする作業療法の視点をいかに治療・援助に活かすのか詳細に検討する。																																																														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の基礎知識と疾患に伴う生活への影響について説明できる ・作業療法の基本プロセスについて説明できる ・精神系作業療法における評価（症状尺度、社会生活評価尺度等）について説明できる。 																																																														
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：精神障害作業療法の評価総論-1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS、GAF、POMS など）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：観察法の講義と演習-1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：観察法の講義と演習-2</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：作業面接の講義と演習-1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：作業面接の講義と演習-1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：社会機能尺度（LASMI、OT 協会版ケアアセスメント）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：社会機能尺度（LASMI、OT 協会版ケアアセスメント）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：面接法の講義と演習-1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 16 回：面接法の講義と演習-2</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 17 回：重要精神疾患 3 の作業療法について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 18 回：重要精神疾患 3 の作業療法について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 19 回：実践家と当事者による講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 20 回：実践家と当事者による講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 21 回：重要精神疾患 4 の作業療法について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 22 回：重要精神疾患 4 の作業療法について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 23 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 24 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 25 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 26 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 27 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について発表・解説</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 28 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について解説</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 29 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について解説</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 30 回：授業のまとめ</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </tbody> </table> <p>※重要精神疾患は、PBL の効果を高めるため授業が進むにつれ明らかにする。</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより	第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより	第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②	藤田さより	第 4 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②	藤田さより	第 5 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説	藤田さより	第 6 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説	藤田さより	第 7 回：精神障害作業療法の評価総論-1	藤田さより、新宮尚人	第 8 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS、GAF、POMS など）	藤田さより	第 9 回：観察法の講義と演習-1	藤田さより	第 10 回：観察法の講義と演習-2	藤田さより	第 11 回：作業面接の講義と演習-1	藤田さより	第 12 回：作業面接の講義と演習-1	藤田さより	第 13 回：社会機能尺度（LASMI、OT 協会版ケアアセスメント）	藤田さより	第 14 回：社会機能尺度（LASMI、OT 協会版ケアアセスメント）	藤田さより	第 15 回：面接法の講義と演習-1	藤田さより	第 16 回：面接法の講義と演習-2	藤田さより	第 17 回：重要精神疾患 3 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人	第 18 回：重要精神疾患 3 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人	第 19 回：実践家と当事者による講義	藤田さより	第 20 回：実践家と当事者による講義	藤田さより	第 21 回：重要精神疾患 4 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人	第 22 回：重要精神疾患 4 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人	第 23 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL①	藤田さより	第 24 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL①	藤田さより	第 25 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL②	藤田さより	第 26 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL②	藤田さより	第 27 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について発表・解説	藤田さより	第 28 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について解説	藤田さより	第 29 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について解説	藤田さより	第 30 回：授業のまとめ	藤田さより
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																																														
第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより																																																														
第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより																																																														
第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②	藤田さより																																																														
第 4 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②	藤田さより																																																														
第 5 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説	藤田さより																																																														
第 6 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説	藤田さより																																																														
第 7 回：精神障害作業療法の評価総論-1	藤田さより、新宮尚人																																																														
第 8 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS、GAF、POMS など）	藤田さより																																																														
第 9 回：観察法の講義と演習-1	藤田さより																																																														
第 10 回：観察法の講義と演習-2	藤田さより																																																														
第 11 回：作業面接の講義と演習-1	藤田さより																																																														
第 12 回：作業面接の講義と演習-1	藤田さより																																																														
第 13 回：社会機能尺度（LASMI、OT 協会版ケアアセスメント）	藤田さより																																																														
第 14 回：社会機能尺度（LASMI、OT 協会版ケアアセスメント）	藤田さより																																																														
第 15 回：面接法の講義と演習-1	藤田さより																																																														
第 16 回：面接法の講義と演習-2	藤田さより																																																														
第 17 回：重要精神疾患 3 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人																																																														
第 18 回：重要精神疾患 3 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人																																																														
第 19 回：実践家と当事者による講義	藤田さより																																																														
第 20 回：実践家と当事者による講義	藤田さより																																																														
第 21 回：重要精神疾患 4 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人																																																														
第 22 回：重要精神疾患 4 の作業療法について	藤田さより、新宮尚人																																																														
第 23 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL①	藤田さより																																																														
第 24 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL①	藤田さより																																																														
第 25 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL②	藤田さより																																																														
第 26 回：重要精神疾患 5 の作業療法について PBL②	藤田さより																																																														
第 27 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について発表・解説	藤田さより																																																														
第 28 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について解説	藤田さより																																																														
第 29 回：重要精神疾患 5 の基本的障害像と作業療法について解説	藤田さより																																																														
第 30 回：授業のまとめ	藤田さより																																																														

アクティブ ラーニング	PBL を行います。
評価方法	レポート 60% 小テスト 40%
課題に対する フィード バック	フィードバックペーパーに書かれた質問等は次回の講義で解説・返答致します。 レポートに関してはコメントを書いて返却致します。
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法 第3版 三輪書店 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業療法治療学 2 精神障害。 協同医書出版社 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法。中央法規
参考図書	上野武治編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第3版』医学書院
事前・ 事後学修	さまざまな精神疾患について学びます。各疾患の該当する箇所を事前事後で教科書を熟読すること。また各評価法に関しては同じ評価を用いた実践例が掲載されている事前事後に読んで重要なポイントをおさえておくこと（事前事後毎回 40 分）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	発達障害作業療法学
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2単位 (60時間) 作業必修 5セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	発達障がい領域における作業療法について、基本的概念を学習する。具体的には、①定型的発達過程を復習する。②身体障害、知覚・認知障害、行動障害、知的障害、感覚統合障害等の障害に対する基本的知識及び、実際の作業療法について学習する。④近隣にある児童通所施設を利用している対象児に対して、観察、解釈、作業療法プログラムを立案し、治療法の一部を実施する。施設等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	(1)新生児から1歳頃までの定型的発達過程と原始反射について説明できる。 (2)対象児に対する作業療法プログラムを立案することができる。 (3)施設において立案したプログラムを実施することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>伊藤 信寿</p> <p>第1, 2回 発達障がい領域における作業療法の実践</p> <p>第3, 4回 定型的発達過程について</p> <p>第5, 6回 主に脳性麻痺に対する評価と解釈</p> <p>第7, 8回 主に脳性麻痺に対する評価と解釈</p> <p>第9, 10回 主に脳性麻痺に対するOTプログラムの立案</p> <p>第11, 12回 主に脳性麻痺に対するOTプログラムの立案</p> <p>第13, 14回 発達障がい領域における主な治療理論</p> <p>第15, 16回 発達障がい領域における主な治療理論</p> <p>第17, 18回 児童通所施設に通園している子どもたちに対するOTプログラムの立案</p> <p>第19, 20回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践</p> <p>第21, 22回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践</p> <p>第23, 24回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践</p> <p>第25, 26回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践</p> <p>第27, 28回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践</p> <p>第29, 30回 児童通所施設に通園している子どもたちに対してOT実践</p> <p>授業計画：各回 80分×2コマ</p>

アクティブラーニング	グループワークを行い、各対象の作業療法プログラムを企画する。 児童通所施設に通園している子どもに対して、実際に遊びを通して、観察評価、記録、遊びの企画、遊びの実践を行う。
評価方法	定期試験 (50%), ポートフォリオ (20%) 遊びの企画・実践におけるルーブリックを使用した評価 (30%)
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを Moodle を用いて提出してもらい、質問や意見については授業の中で回答する。 ポートフォリオに対しフィードバックを行う。 作業療法プログラムのレポート、遊びの企画書のレポートに対し、フィードバックを行う。 ルーブリックを使用しながら、個別にフィードバックを行う。
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
参考図書	イラストでわかる発達障害の作業療法 上杉雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	事前学修：課題を設定する (40 分程度) 事後学修：レポートに対するフィードバックについて再検討する (40 分程度)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	地域作業療法学 I
科目責任者	田島明子
単位数他	2 単位 (45 時間) 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	理学療法・作業療法・言語聴覚療法の評価結果を基に、対象者の疾病と病態、障害特性との関係を臨床推論でき、保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の基本的な考え方とライフステージに沿った、QOLの維持・向上を目指した作業療法の実践を学ぶ。作業療法実践に必要な法制度や作業療法実践を学ぶことで、作業療法対象者の全体像を捉えること、介入の方法・考え方を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活するクライアントのQOLを支援するために必要な基本的考え方を知る。 ・ライフステージに沿った法制度や作業療法実践を理解する。 ・作業療法士として地域に貢献するために必要な基礎的知識を身に付ける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1～2回：地域リハビリテーションの流れ 田島明子 地域リハビリテーションの歴史と現状、考え方について説明する。</p> <p>第3～4回：ライフステージに沿った浜松市における法制度 田島明子、特別講師：浜松市障害福祉職員 浜松市職員より、浜松市の障害者、高齢者の生活状況と現在の市の取り組み、今後の課題等について説明する。</p> <p>第4回：子どもの生活を支える作業療法-1 伊藤信寿</p> <p>第5回：保育・療育・教育における作業療法-1 伊藤信寿</p> <p>第6回：保育・療育・教育における作業療法-2 伊藤信寿 子育て支援や特別支援教育、学童保育における作業療法の役割、また、児童福祉における作業療法の役割について考える機会にする。</p> <p>第7回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-1 建木健</p> <p>第8回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-2 建木健</p> <p>第9回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-3 建木健 地域で障害を持つ人の就労を支えるための場づくりについて、制度や施策との連携、地域の資源の活用、新たな取りくみの創出の方法について説明する。</p> <p>第10回：地域を創る支援 田島明子、特別講師</p> <p>第11回：地域を創る支援 田島明子、特別講師 精神障害を持ち、農業を行い、生活の糧や生き方を創造しているルーツケアセルフのメンバーに話しをしてもらい、障害を持ち地域で暮らすために必要なことを考える機会にする。</p> <p>第12回：当事者として地域で生きる-1 田島明子、特別講師</p> <p>第13回：当事者として地域で生きる-2 田島明子、特別講師 障害を持つ当事者であり、作業療法士である2名から障害を持ち現在に至るまでの気持ちや生活変化について話をしてもらい、作業療法士として障害を持つ人にどのように支援をしたらよいかを考える機会にする。</p> <p>第14回：高齢者と地域作業療法-1 田島明子</p> <p>第15回：高齢者と地域作業療法-2 田島明子 高齢期の地域作業療法について、介護保険制度の詳細と、現状行われている介護予防の取り組み、今後期待される取り組みについて説明をする。</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。 ※グループワークを行うことがあります。</p>
アクティブラーニング	ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。また、特別講師を招いた授業では、実践的、体験的な内容を学ぶため、質問を行うなど積極的に学んでください。
評価方法	定期試験 70% レポート 30%

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いて学修への関心や進行状況を確認していく。必要に応じてフ課題遂行のためのアドバイスを行う。
指定図書	太田睦美 編集 「作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学」 協同医書出版
事前・事後学修	事前学修 20分以上、事後学修 20分以上 <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤、建木、田島で主に講義を行います。各担当教員の指示に従ってください。 ・ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。

科目名	地域作業療法学Ⅱ																																	
科目責任者	藤田 さより																																	
単位数他	2単位 (30時間) 作業必修 5セメスター																																	
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。																																	
科目概要	地域作業療法の中で、近年、その活躍の場が広がりつつある職業関連活動を中心に、講義、演習を行います。また近隣地域での障害者に対する制度や取りくみや作業療法活動を調査し、作業療法士が地域で果たすべき役割、視点について理解します。																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業リハビリテーションに関する制度、支援を理解する。 2. 職業関連活動で用いる各種評価法について理解し、実践できる。 3. 障害者に対する就労支援において重要なポイントを理解できる。 4. 障害者に対する就労支援において作業療法士の果たすべき役割を理解できる。 5. 地域で生活する障害者に対する施策について理解できる。 																																	
授業計画	<p>担当教員：藤田さより 建木健 田島明子</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション 地域における課題（講義）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td style="text-align: right;">建木健</td> </tr> <tr> <td>第8回：障害者特性に応じた就労支援の実際</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第9回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第10回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第11回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（PBL）</td> <td style="text-align: right;">建木健・藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）</td> <td style="text-align: right;">建木健</td> </tr> <tr> <td>第13回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：障害者に対する地域支援のあり方（講義）</td> <td style="text-align: right;">田島明子</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ（講義）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </tbody> </table>		＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション 地域における課題（講義）	藤田さより	第2回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより	第3回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより	第4回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより	第5回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより	第6回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより	第7回：障害者特性に応じた就労支援の実際	建木健	第8回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより	第9回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより	第10回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより	第11回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（PBL）	建木健・藤田さより	第12回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）	建木健	第13回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）	藤田さより	第14回：障害者に対する地域支援のあり方（講義）	田島明子	第15回：まとめ（講義）	藤田さより
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																	
第1回：オリエンテーション 地域における課題（講義）	藤田さより																																	
第2回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより																																	
第3回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより																																	
第4回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより																																	
第5回：就労支援における作業療法の役割（PBL）	藤田さより																																	
第6回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより																																	
第7回：障害者特性に応じた就労支援の実際	建木健																																	
第8回：障害者特性に応じた就労支援の実際	藤田さより																																	
第9回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより																																	
第10回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）	藤田さより																																	
第11回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（PBL）	建木健・藤田さより																																	
第12回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）	建木健																																	
第13回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）	藤田さより																																	
第14回：障害者に対する地域支援のあり方（講義）	田島明子																																	
第15回：まとめ（講義）	藤田さより																																	

アクティブ ラーニング	PBL を行います。
評価方法	レポート 100%
課題に対する フィード バック	フィードバックペーパーに記載いただいた内容について、次回の授業時に回答、解説等を致します。レポートには、評価、コメントを記載し、返却致します。
指定図書	平賀昭信, 岩瀬義昭編集『作業療法学全書改訂第3版 職業関連活動』協同医書出版社
参考図書	松為信雄, 菊池恵美子 編『職業リハビリテーション学』協同医書出版社
事前・ 事後学修	各種障害に応じた就労支援のあり方について学びますので、精神障害、知的障害、高次脳障害、発達障害についての障害特性について事前事後に学修してください。また就労支援に関する法制度に関しては、関連するホームページを閲覧するようにしてください。(毎回事前事後 40分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床実習 I
科目責任者	中島ともみ
単位数他	8 単位 (360 時間) 作業必修 6 セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	<p>学内外で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士としての自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習へ向けて準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下 8 週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、作業療法士として臨床現場で活用できる基盤をつくることの 3 本柱で構成される。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	(1)職業人としての望ましい態度や行動をとる ことができる。(2)対象者の全体像を把握できる。(3)対象者の作業療法計画を立案できる。(4)記録・報告をすることができる。(5)管理・運営について理解することができる。
授業計画	<p><担当教員名> 中島ともみ、伊藤 信寿、泉 良太、田島明子、建木健、鈴木達也、藤田さより</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する</p> <p>2. 実習施設における臨床実習 1) 実習地オリエンテーション 2) 担当する対象者に対する作業療法 3) 担当外対象者の作業療法の補助、見学 4) 管理的組織的業務内容の見学・理解 5) 各実習地で提示される課題の遂行 6) その他</p> <p>3. 学内セミナー 1) 学んだことの整理 2) 担当事例（症例）および施設の報告 3) その他</p> <p>学内オリエンテーションは、第 1 回 8 月上旬に実施予定 第 2 回 9 月上旬に実施予定 第 3 回 9 月下旬・10 月中旬予定</p> <p>臨床実習時期は、10 月下旬 学内セミナーは、1 月上旬と下旬 臨床実習施設は未定、追って連絡する。 臨床実習指導者会議は 9 月第 3 土曜日実施予定</p>

アクティブラーニング	学内セミナーでは、グループワークを含む。
評価方法	臨床実習指導者による最終評価をもとに、学内セミナーにおける報告内容と報告書、およびポートフォリオの内容を考慮して、総合的に判断する。なお実習の成績評価は、実習中の教員訪問や電話などによる確認の中で、指導者・学生・教員の3者の協議も含めて判断する。 なお、症例報告の達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
課題に対するフィードバック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点について内省を促し、確認する
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
参考図書	必要に応じて授業中に紹介する
事前・事後学修	ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 学内で学習するすべての科目のポートフォリオの作成、検査測定手法の復習を必ず行ってください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3516 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床実習Ⅱ
科目責任者	泉 良太
単位数他	7単位（315時間） 作業必修 7セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備をすること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下、7週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習Ⅰを踏まえ、さらに実践的な臨床能力を養うために1点目を最低限の目標とするが、2点目についてもさらなる発展的な学習機会として経験を積むことが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 2. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。
授業計画	<p><科目担当教員>泉良太、田島明子、伊藤信寿、中島ともみ、建木健、藤田さより、鈴木達也</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする。 2. 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習地オリエンテーション 2) 担当する対象者に対する作業療法 3) 担当外対象者の作業療法の補助・見学 4) 管理的組織的業務内容の見学・理解 5) 各実習地で提示される課題の遂行 6) その他 3. 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> 1) 学んだことの整理 2) 担当事例（症例）および施設の報告 3) その他 <p>・臨床実習Ⅰの経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	<p>実習指導者による最終評価 75%</p> <p>その他（症例報告書、セミナーでの報告、ポートフォリオ） 25%</p> <p>計 100%</p>

課題に対するフィードバック	<p>実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導（事例報告指導含む）</p>
指定図書	<p>臨床実習ガイドブック（最新版）</p>
参考図書	<p>オリエンテーション時に随時連絡</p>
事前・事後学修	<p>事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 ・ 総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（ryota-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントをとってください。</p>

科目名	臨床実習Ⅲ
科目責任者	田島明子
単位数他	7単位(315時間) 作業必修 7セメスター
科目の位置付	臨床実習を通して、対象者の疾患と病態、障害特性に応じた根拠に基づいた基本的かつ適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法を実践し、保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下7週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習Ⅰ、Ⅱにおける内省を通して、指導者の指導のもと、以下の4点について模倣実施することを目標とする。</p> <p>(1)対象者に対し適切な評価を選択、実施し、目標設定することができる。</p> <p>(2)対象者に対し適切な治療・指導・援助を計画し、実施することができる。</p> <p>(3)作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直し、修正することができる。</p> <p>(4)記録・報告を適切に行うことができる。</p>
授業計画	<p>担当教員：田島明子、伊藤信寿、泉良太、建木健、鈴木達也、中島ともみ、藤田さより</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習地オリエンテーション 担当する対象者に対する作業療法 担当外対象者の作業療法の補助、見学 管理的組織的業務内容の見学・理解 各実習地で提示される課題の遂行 その他 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> 学んだことの整理 担当事例（症例）および施設の報告 その他 <p>・臨床実習Ⅱの経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。</p> <p>・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>
アクティブラーニング	<p>実習科目です。</p> <p>Ⅱ期終了後、Ⅲ期実習までに2週間の期間があるので、その間にⅡ期の振り返りを踏まえ、課題となった点を整理し、Ⅲ期実習に向けた知識・技術確認などの準備を行うことが求められる。</p>
評価方法	<p>臨床実習指導者による最終評価75%</p> <p>その他(学内セミナーにおける報告、症例報告書、ポートフォリオ)25%</p>
課題に対するフィードバック	<p>学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点を内省を促し、確認する。</p>

ク	
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
事前・ 事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおい てください。 ・ 総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間等：毎週水曜日 13 時～14 時（他の時間でもアポを取って頂けば大丈夫です）

科目名	言語聴覚学特別講義																																																														
科目責任者	佐藤豊展																																																														
単位数他	2単位 (60 時間) 言語必修 8 セメスター																																																														
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、他職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。																																																														
科目概要	4年間学んだ言語聴覚士国家試験対象科目である専門基礎科目、専門科目の学習内容を振り返りながら、各科目の理解度と習得状況を確認する。また、知識が不十分な科目について学生自ら自覚し、必要な知識の再学習を行なう。																																																														
到達目標	1. 各科目の頻出用語を理解し、説明できる 2. 小テストで8割正答できるようになる																																																														
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回：オリエンテーション、専門基礎科目復習</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第2回：解剖学</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第3回：生理学</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第4回：病理学・内科学</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第5回：病理学・内科学</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第6回：小児科学</td><td>大原重洋</td></tr> <tr><td>第7回：臨床神経学</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr><td>第8回：耳鼻咽喉科学</td><td>石津希代子</td></tr> <tr><td>第9回：形成外科学・臨床歯科学・口腔外科学</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第10回：呼吸発声系の構造・機能・病態</td><td>柴本 勇</td></tr> <tr><td>第11回：聴覚系の構造・機能・病態</td><td>大原重洋</td></tr> <tr><td>第12回：神経系の構造・機能・病態</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr><td>第13回：学習・認知心理学</td><td>石津希代子</td></tr> <tr><td>第14回：音声学</td><td>中村哲也</td></tr> <tr><td>第15回：音声学</td><td>中村哲也</td></tr> <tr><td>第16回：言語発達学</td><td>中村哲也</td></tr> <tr><td>第17回：社会福祉・関係法規、リハビリテーション概論</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr><td>第18回：小テスト（専門基礎科目）、専門科目復習</td><td>佐藤豊展</td></tr> <tr><td>第19回：失語症学</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr><td>第20回：失語症学</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr><td>第21回：高次脳機能障害</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr><td>第22回：言語発達障害学</td><td>大原重洋</td></tr> <tr><td>第23回：言語発達障害学</td><td>中村哲也</td></tr> <tr><td>第24回：音声障害学</td><td>柴本 勇</td></tr> <tr><td>第25回：機能的構音障害・器質性構音障害</td><td>中村哲也</td></tr> <tr><td>第26回：運動障害性構音障害・嚥下障害</td><td>柴本 勇</td></tr> <tr><td>第27回：小児聴覚障害学</td><td>大原重洋</td></tr> <tr><td>第28回：成人聴覚障害学</td><td>大原重洋</td></tr> <tr><td>第29回：補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害</td><td>大原重洋</td></tr> <tr><td>第30回：小テスト（専門科目）、総括</td><td>佐藤豊展</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション、専門基礎科目復習	佐藤豊展	第2回：解剖学	佐藤豊展	第3回：生理学	佐藤豊展	第4回：病理学・内科学	佐藤豊展	第5回：病理学・内科学	佐藤豊展	第6回：小児科学	大原重洋	第7回：臨床神経学	佐藤順子	第8回：耳鼻咽喉科学	石津希代子	第9回：形成外科学・臨床歯科学・口腔外科学	佐藤豊展	第10回：呼吸発声系の構造・機能・病態	柴本 勇	第11回：聴覚系の構造・機能・病態	大原重洋	第12回：神経系の構造・機能・病態	佐藤順子	第13回：学習・認知心理学	石津希代子	第14回：音声学	中村哲也	第15回：音声学	中村哲也	第16回：言語発達学	中村哲也	第17回：社会福祉・関係法規、リハビリテーション概論	谷 哲夫	第18回：小テスト（専門基礎科目）、専門科目復習	佐藤豊展	第19回：失語症学	谷 哲夫	第20回：失語症学	谷 哲夫	第21回：高次脳機能障害	佐藤順子	第22回：言語発達障害学	大原重洋	第23回：言語発達障害学	中村哲也	第24回：音声障害学	柴本 勇	第25回：機能的構音障害・器質性構音障害	中村哲也	第26回：運動障害性構音障害・嚥下障害	柴本 勇	第27回：小児聴覚障害学	大原重洋	第28回：成人聴覚障害学	大原重洋	第29回：補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害	大原重洋	第30回：小テスト（専門科目）、総括	佐藤豊展
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																																														
第1回：オリエンテーション、専門基礎科目復習	佐藤豊展																																																														
第2回：解剖学	佐藤豊展																																																														
第3回：生理学	佐藤豊展																																																														
第4回：病理学・内科学	佐藤豊展																																																														
第5回：病理学・内科学	佐藤豊展																																																														
第6回：小児科学	大原重洋																																																														
第7回：臨床神経学	佐藤順子																																																														
第8回：耳鼻咽喉科学	石津希代子																																																														
第9回：形成外科学・臨床歯科学・口腔外科学	佐藤豊展																																																														
第10回：呼吸発声系の構造・機能・病態	柴本 勇																																																														
第11回：聴覚系の構造・機能・病態	大原重洋																																																														
第12回：神経系の構造・機能・病態	佐藤順子																																																														
第13回：学習・認知心理学	石津希代子																																																														
第14回：音声学	中村哲也																																																														
第15回：音声学	中村哲也																																																														
第16回：言語発達学	中村哲也																																																														
第17回：社会福祉・関係法規、リハビリテーション概論	谷 哲夫																																																														
第18回：小テスト（専門基礎科目）、専門科目復習	佐藤豊展																																																														
第19回：失語症学	谷 哲夫																																																														
第20回：失語症学	谷 哲夫																																																														
第21回：高次脳機能障害	佐藤順子																																																														
第22回：言語発達障害学	大原重洋																																																														
第23回：言語発達障害学	中村哲也																																																														
第24回：音声障害学	柴本 勇																																																														
第25回：機能的構音障害・器質性構音障害	中村哲也																																																														
第26回：運動障害性構音障害・嚥下障害	柴本 勇																																																														
第27回：小児聴覚障害学	大原重洋																																																														
第28回：成人聴覚障害学	大原重洋																																																														
第29回：補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害	大原重洋																																																														
第30回：小テスト（専門科目）、総括	佐藤豊展																																																														
アクティブ ラーニング	国家試験に向けて、Moodle を使用した小テスト、課題を行います。																																																														

評価方法	定期試験 60%、小テスト 40%
課題に対するフィードバック	小テストについては解答を提示したうえで再学習を行います。
指定図書	小松崎 篤・藤田 郁代・岩田 誠・広瀬 肇 「言語聴覚士テキスト」 医歯薬出版
事前・事後学修	各科目を受講前に指定図書を読み、過去6年分の国家試験問題を解いておくこと。 今までのノート、配布資料、課題はファイリングしておくこと。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示します

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 8セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚障害に関する基礎分野、専門基礎分野、専門分野の学修および臨床実習が終了した学生を対象とする。各々の言語聴覚障害に関する診断・評価法を整理し、それらを統合して臨床の場で個々の言語聴覚障害児・者に応用する能力を身につける。
到達目標	1. 言語聴覚障害者に対して、自由会話・情報収集からその障害像を予測し、必要で正しい評価が実施できる。 2. 評価結果を適切に解釈し、それを基にした診断ができる。 3. 訓練のための評価ができ、個々の障害に適した訓練計画の立案ができる。 4. 言語聴覚士として、対象者に対する責任を明確に認識した行動ができる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞</p> <p>第1回～2回：グループごとに症例報告、質疑応答 佐藤順子</p> <p>第3回～4回：全体で症例報告、質疑応答 小児 佐藤順子・大原重洋</p> <p>第5回～6回：全体で症例報告、質疑応答 失語 佐藤順子・谷 哲夫</p> <p>第7回～8回：全体で症例報告、質疑応答 嚥下 佐藤順子・柴本 勇・佐藤豊展</p> <p>第9回～10回：全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳 佐藤順子・中村哲也</p> <p>第11回～12回：全体で症例報告、質疑応答 失語・高次脳 佐藤順子・中村哲也</p> <p>第13回～14回：全体で症例報告、質疑応答 (3年生総合演習) 佐藤順子・中村哲也</p> <p>第15回：言語聴覚障害に対するグループ療法・訪問リハビリテーション 佐藤順子</p>
アクティブラーニング	各症例報告について授業内でディスカッションをします。
評価方法	定期試験(90%) 発表(10%)
課題に対するフィードバック	各専門科目担当教員が授業内に解説します。
指定図書	なし
事前・事後学修	<p>[事前学修] 症例発表の準備をすること。</p> <p>[事後学修] 発表時にディスカッションしたこと、質疑応答の内容を踏まえて修正をする。</p>

オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール (junko-sa@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

科目名	失語症学Ⅱ
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2単位 (60時間) 言語必修 5セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している
科目概要	失語症学Ⅰの基礎的知識・技術をふまえ、失語症例への評価・鑑別及びその言語聴覚療法を演習を通して学ぶ。演習(グループ演習)は失語症の方のご協力を頂き、適切な検査を選択し、実施する。その結果を集約・解釈し、掘り下げ検査を選択、実施する。さらに全体像を把握し、訓練プログラムを立案し一部を実施し、報告書作成を行う。
到達目標	1. 失語症例に対するリハビリテーション理論とリハビリテーション技法を理解する。 2. 理論に基づいた訓練計画をグループで立案し、学生同士で実施できる。 3. 実際の患者様の評価、診断、治療プログラムの立案ができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回: オリエンテーション</p> <p>第2回: 失語症の言語治療 (原則、デザイン、各期の言語治療) 谷</p> <p>第3回: 回復過程と改善に関する諸要因 谷</p> <p>第4回: 言語治療理論と技法① 刺激法とその6原則 谷</p> <p>第5回: 言語治療理論と技法② 機能再編成法 遮断除去法 谷</p> <p>第6回: 言語治療理論と技法③ C I療法 その他 谷</p> <p>第7回: 理論に基づいた言語治療(演習)① 谷</p> <p>第8回: 理論に基づいた言語治療(演習)② 谷</p> <p>第9回: 理論に基づいた言語治療(演習)③ 谷</p> <p>第10回: 演習(ビデオ症例による評価・診断) 谷</p> <p>第11回: 演習(ビデオ症例に対するプログラム立案) 谷</p> <p>第12回: 患者様をお迎えする準備 (企画書作成・実際に想定した演習) 谷</p> <p>第13回: 演習①(患者様のご協力) 検査 初回面接から 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第14回: 演習②(患者様のご協力) 検査 「話す」まで 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第15回: 演習③(患者様のご協力) 検査 「話す」から 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第16回: 演習④(患者様のご協力) 検査 「読む」まで 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第17回: 演習⑤(患者様のご協力) 検査 「読む」から 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第18回: 演習⑥(患者様のご協力) 検査 「書く」または掘り下げ 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第19回: 結果の分析、まとめ、治療プランの立案 谷</p> <p>第20回: 結果の分析、まとめ、治療プランの企画書作成 谷</p> <p>第21回: 演習⑦(患者様のご協力) 治療説明 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第22回: 演習⑧(患者様のご協力) 治療実施 谷・佐藤順・佐藤豊</p> <p>第23回: グループごとの反省会 谷</p> <p>第24回: 演習症例についてグループ討議 谷</p> <p>第25回: 結果の分析、レポート作成 谷</p> <p>第26回: レポート作成 発表準備 谷</p> <p>第27回: 協力者様・ご家族向け結果説明書作成 谷</p> <p>第28回: 三方原病院にて結果説明書(報告書)作成 谷</p> <p>第29回: 演習症例について発表(症例報告提出) 谷</p> <p>第30回: 全体グループディスカッション 谷</p>
アクティブ ラーニング	演習科目

評価方法	定期試験 60% 演習の技能 20% 症例報告書 20%
課題に対するフィードバック	企画書に関する解説・フィードバックは授業の中で行います。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	
事前・事後学修	演習前の企画書の作成と修正（各 40 分） 演習後の報告書の作成と修正（各 40 分）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	失語症学Ⅲ																												
科目責任者	谷 哲夫																												
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター																												
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している																												
科目概要	これまで学修した失語症リハビリの方法を復習します。次に、病期別の失語症リハビリの目的・方について学修し、 最後に 、慢性期失語症者の生活や在宅失語リハビリの置かれている現状を理解する。																												
到達目標	1. 病期別に失語症治療の 古典分類による治療 や 認知神経心理学的解釈による治療 の基礎を理解できる。 2. 患者の生活場面を想定した 目標の設定 や 治療プラン の必要性が理解できる。 3. 患者から得た情報や検査結果を整理しまとめることができる。																												
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回： 失語症Ⅱの演習でまとめた報告書の振り返り</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 2 回： 急性期の失語症治療①情報収集から治療開始まで</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 3 回： 急性期の失語症治療②リスク管理</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 4 回： 慢性期失語症グループ訓練とは</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 回復期の失語症治療①認知神経心理学的解釈に基づく治療計画</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 8 回： 回復期の失語症治療②掘り下げ検査の目的</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 9 回： 慢性期の失語症治療①情報収集</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 10 回： 慢性期の失語症治療②介護保険下の失語症治療の実態</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 11 回： 検査サマリーの書き方</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 12 回： 経過報告書の書き方</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 13 回： 訪問言語聴覚士による講義</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 14 回： 訪問言語聴覚士による講義</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 15 回： 授業のまとめ</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員>	第 1 回： 失語症Ⅱの演習でまとめた報告書の振り返り	谷	第 2 回： 急性期の失語症治療①情報収集から治療開始まで	谷	第 3 回： 急性期の失語症治療②リスク管理	谷	第 4 回： 慢性期失語症グループ訓練とは	谷	第 7 回： 回復期の失語症治療①認知神経心理学的解釈に基づく治療計画	谷	第 8 回： 回復期の失語症治療②掘り下げ検査の目的	谷	第 9 回： 慢性期の失語症治療①情報収集	谷	第 10 回： 慢性期の失語症治療②介護保険下の失語症治療の実態	谷	第 11 回： 検査サマリーの書き方	谷	第 12 回： 経過報告書の書き方	谷	第 13 回： 訪問言語聴覚士による講義	谷	第 14 回： 訪問言語聴覚士による講義	谷	第 15 回： 授業のまとめ	谷
<授業内容・テーマ等>	<担当教員>																												
第 1 回： 失語症Ⅱの演習でまとめた報告書の振り返り	谷																												
第 2 回： 急性期の失語症治療①情報収集から治療開始まで	谷																												
第 3 回： 急性期の失語症治療②リスク管理	谷																												
第 4 回： 慢性期失語症グループ訓練とは	谷																												
第 7 回： 回復期の失語症治療①認知神経心理学的解釈に基づく治療計画	谷																												
第 8 回： 回復期の失語症治療②掘り下げ検査の目的	谷																												
第 9 回： 慢性期の失語症治療①情報収集	谷																												
第 10 回： 慢性期の失語症治療②介護保険下の失語症治療の実態	谷																												
第 11 回： 検査サマリーの書き方	谷																												
第 12 回： 経過報告書の書き方	谷																												
第 13 回： 訪問言語聴覚士による講義	谷																												
第 14 回： 訪問言語聴覚士による講義	谷																												
第 15 回： 授業のまとめ	谷																												
アクティブ ラーニング	Moodle を活用します																												

評価方法	定期試験 80%、 毎回の小テスト（復習テスト） 10% 症例報告書の提出（1回） 10%
課題に対するフィードバック	小テスト（復習テスト）の解説は授業の中で行います。
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学 第2版」医学書院 小嶋知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
参考図書	
事前・事後学修	Moodle による予習・復習（各 40 分）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	高次脳機能障害学 I																																
科目責任者	佐藤順子																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター																																
科目の位置付	(2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	高次脳機能障害は言語聴覚障害に直接的に、ならびに間接的に影響を与える障害であり、言語聴覚療法学の学習においては重要な学習分野である。高次脳機能障害学 I では脳および神経系の解剖生理をはじめ、脳損傷により多彩な障害を生じる高次脳機能障害について全般的に理解する。また代表的な高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムなどについて症例を通じて実践的に理解を深める。授業の進め方としては、小グループによる PBL チュートリアル、講義、演習を通じ、高次脳機能障害の各症状の特徴を理解し、評価、具体的なリハビリテーションアプローチについて検討する。また、障害の全体像を把握できるようにし、臨床における一連の流れについても学修する。																																
到達目標	1. 高次脳機能障害の症状や病巣、障害メカニズムについて理解する。 2. 高次脳機能障害の状態を的確に把握し、評価することができる。 3. 高次脳機能障害に対して、リハビリテーションを実践するための知識・技術を習得する。																																
授業計画	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border: none;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center; border: none;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">第 1 回： 高次脳機能障害とは、原因疾患</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 2 回：①視覚失認、相貌失認 (PBL)</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 3 回：①視覚失認、相貌失認 発表 解説</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 4 回：②視空間障害 (PBL)</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 5 回：②視空間障害 発表 解説</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 6 回：③記憶障害 (PBL)</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 7 回：③記憶障害 発表 解説</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 8 回：④前頭葉機能障害 (PBL)</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 9 回：④前頭葉機能障害 発表 解説</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 10 回：⑤認知症 (PBL)</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 11 回：⑤認知症 発表 解説</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 12 回：⑥失行 (PBL)</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 13 回：⑥失行 発表 解説</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 14 回：聴覚失認、触覚失認、身体失認失算、脳梁離断症状</td> <td style="border: none;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 15 回：画像</td> <td style="border: none;">佐藤順子</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回： 高次脳機能障害とは、原因疾患	佐藤順子	第 2 回：①視覚失認、相貌失認 (PBL)	佐藤豊展	第 3 回：①視覚失認、相貌失認 発表 解説	佐藤豊展	第 4 回：②視空間障害 (PBL)	佐藤豊展	第 5 回：②視空間障害 発表 解説	佐藤豊展	第 6 回：③記憶障害 (PBL)	佐藤順子	第 7 回：③記憶障害 発表 解説	佐藤順子	第 8 回：④前頭葉機能障害 (PBL)	佐藤順子	第 9 回：④前頭葉機能障害 発表 解説	佐藤順子	第 10 回：⑤認知症 (PBL)	佐藤順子	第 11 回：⑤認知症 発表 解説	佐藤順子	第 12 回：⑥失行 (PBL)	佐藤豊展	第 13 回：⑥失行 発表 解説	佐藤豊展	第 14 回：聴覚失認、触覚失認、身体失認失算、脳梁離断症状	佐藤豊展	第 15 回：画像	佐藤順子
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回： 高次脳機能障害とは、原因疾患	佐藤順子																																
第 2 回：①視覚失認、相貌失認 (PBL)	佐藤豊展																																
第 3 回：①視覚失認、相貌失認 発表 解説	佐藤豊展																																
第 4 回：②視空間障害 (PBL)	佐藤豊展																																
第 5 回：②視空間障害 発表 解説	佐藤豊展																																
第 6 回：③記憶障害 (PBL)	佐藤順子																																
第 7 回：③記憶障害 発表 解説	佐藤順子																																
第 8 回：④前頭葉機能障害 (PBL)	佐藤順子																																
第 9 回：④前頭葉機能障害 発表 解説	佐藤順子																																
第 10 回：⑤認知症 (PBL)	佐藤順子																																
第 11 回：⑤認知症 発表 解説	佐藤順子																																
第 12 回：⑥失行 (PBL)	佐藤豊展																																
第 13 回：⑥失行 発表 解説	佐藤豊展																																
第 14 回：聴覚失認、触覚失認、身体失認失算、脳梁離断症状	佐藤豊展																																
第 15 回：画像	佐藤順子																																
アクティブラーニング	演習科目です (障害ごとに症例を提示してグループで検討し、症例報告書を作成します)																																
評価方法	定期試験 (60%) 提出物: 症例報告書 (40%)																																
課題に対するフィードバック	次回の授業で発表後に解説を行います																																

指定図書	<p>『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著医学書院 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著 建帛社</p>
事前・ 事後学修	<p>[事前学修] 事前に指定図書の該当箇所を読んでまとめておくこと。</p> <p>[事後学修] 症例をまとめて発表できるように準備をする。</p>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール (junko-sa@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ																																
科目責任者	佐藤順子																																
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 6セメスター																																
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	高次脳機能障害学Ⅰでの基礎的学習内容をふまえ、高次脳機能障害の評価・鑑別・分析・リハビリテーション技法について学ぶ。評価においては、グループ演習により、各種検査手続き、結果の集約と解釈について具体的に学ぶ。臨床における一連の流れやリハビリテーションにおける各種訓練法と効果、さらには代償法、環境調整についても学ぶ。事例課題では症例を提示し、症状の分析、鑑別診断、問題点の抽出、目標、訓練プログラムなどを検討し、結果をまとめてレポートを作成する。一連の学習を通して臨床実習や臨床において適切に対応できる能力を習得するように図る。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の症状を捉え、分析、鑑別診断をすることができる。 2. グループ演習によって各種検査の手続きを習得し、結果の集約と解釈をすることができる。 3. リハビリテーションにおける各種訓練法と効果について理解する。 4. 問題点を抽出しリハビリテーションの目標を定め訓練プログラムを立案することができる。 5. リハビリテーションにおいて代償法や環境調整を適切に行うことができる。 6. 高次脳機能障害の症例の結果をまとめてレポート作成することができる。 7. 臨床実習や臨床において適切に対応できる能力を習得する。 																																
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第2回：認知症検査①(MMSE,HDS-R,Raven,CDT,,CDR)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第3回：認知症検査② (ADAS-Jcog,コース立方体)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第4回：その他記憶検査(三宅式、AVLT、ベントン、Rey's 図形)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第5回：リバーミード行動記憶検査</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第6回：日本版ウェクスラー記憶検査(WMS-R)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第7回：知能検査(WAIS-III)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第8回：前頭葉機能検査</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第9回：標準高次視知覚検査</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第10回：標準高次動作性検査</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第11回：遂行機能検査(BADS)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第12回：標準注意検査(CAT)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第13回：BIT 行動性無視検査</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第14回：各種検査(実技試験)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第15回：各種検査(実技試験)</td> <td>佐藤順子・中村哲也</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：オリエンテーション	佐藤順子・中村哲也	第2回：認知症検査①(MMSE,HDS-R,Raven,CDT,,CDR)	佐藤順子・中村哲也	第3回：認知症検査② (ADAS-Jcog,コース立方体)	佐藤順子・中村哲也	第4回：その他記憶検査(三宅式、AVLT、ベントン、Rey's 図形)	佐藤順子・中村哲也	第5回：リバーミード行動記憶検査	佐藤順子・中村哲也	第6回：日本版ウェクスラー記憶検査(WMS-R)	佐藤順子・中村哲也	第7回：知能検査(WAIS-III)	佐藤順子・中村哲也	第8回：前頭葉機能検査	佐藤順子・中村哲也	第9回：標準高次視知覚検査	佐藤順子・中村哲也	第10回：標準高次動作性検査	佐藤順子・中村哲也	第11回：遂行機能検査(BADS)	佐藤順子・中村哲也	第12回：標準注意検査(CAT)	佐藤順子・中村哲也	第13回：BIT 行動性無視検査	佐藤順子・中村哲也	第14回：各種検査(実技試験)	佐藤順子・中村哲也	第15回：各種検査(実技試験)	佐藤順子・中村哲也
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：オリエンテーション	佐藤順子・中村哲也																																
第2回：認知症検査①(MMSE,HDS-R,Raven,CDT,,CDR)	佐藤順子・中村哲也																																
第3回：認知症検査② (ADAS-Jcog,コース立方体)	佐藤順子・中村哲也																																
第4回：その他記憶検査(三宅式、AVLT、ベントン、Rey's 図形)	佐藤順子・中村哲也																																
第5回：リバーミード行動記憶検査	佐藤順子・中村哲也																																
第6回：日本版ウェクスラー記憶検査(WMS-R)	佐藤順子・中村哲也																																
第7回：知能検査(WAIS-III)	佐藤順子・中村哲也																																
第8回：前頭葉機能検査	佐藤順子・中村哲也																																
第9回：標準高次視知覚検査	佐藤順子・中村哲也																																
第10回：標準高次動作性検査	佐藤順子・中村哲也																																
第11回：遂行機能検査(BADS)	佐藤順子・中村哲也																																
第12回：標準注意検査(CAT)	佐藤順子・中村哲也																																
第13回：BIT 行動性無視検査	佐藤順子・中村哲也																																
第14回：各種検査(実技試験)	佐藤順子・中村哲也																																
第15回：各種検査(実技試験)	佐藤順子・中村哲也																																
アクティブラーニング	演習科目です(各グループで演習をし、授業では検査者として他の学生に検査を実施します)																																
評価方法	定期試験(60%) 提出物:検査結果のまとめ(30%) 実技試験(10%)																																

課題に対するフィードバック	演習中に解説をし、最後に質疑応答を行います。
指定図書	『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著医学書院 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』深浦順一、為数哲司、内山量史編著建帛社
事前・事後学修	〔事前学修〕 事前に各検査のマニュアルを作成すること。 〔事後学修〕 授業で実施した検査のまとめを作成すること。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語発達障害学Ⅲ	
科目責任者	柴本 勇	
単位数他	2単位 (60時間) 言語必修 5セメスター	
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	言語発達障害学Ⅰ、Ⅱを踏まえて発達段階別・障害別ごとの指導・訓練の立案を行ない、教材を作成し発表する。また、脳性麻痺、重複障害についての知識・理解を深める。	
到達目標	1. 発達段階別、障害別の指導、訓練の立案することができる 2. 脳性麻痺、重複障害のコミュニケーションについて説明できる	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション、指導・訓練の立案の考え方 柴本</p> <p>第2回：前言語期の指導・訓練立案 ①</p> <p>第3、4、5回：</p> <p>① 障害が重く運動が制限されている子どもたちの豊かな言語の世界について。 柴田</p> <p>② 寝たきりの子どもが体を起こし、手を使い始める段階における感覚と運動の世界</p> <p>③ 物と物との関係づけの始まりである「入れる」という行為からはめ板学習への展開</p> <p>第6回：前言語期の指導・訓練立案 ② 柴本</p> <p>第7回：前言語期の指導・訓練立案 ③</p> <p>第8、9、10回： 柴田</p> <p>① 「同じ-違う」という概念形成の根本にあるものから形の学習の発展について</p> <p>② 点字も含めた文字や数などの記号操作の学習について</p> <p>③ 自閉症と言われる子どもたちの言語と認識の世界について</p> <p>第11回：前言語期の指導・発表 柴本</p> <p>第12回：語彙獲得期の指導・訓練立案① 柴本</p> <p>第13回：語彙獲得期の指導・訓練立案②</p> <p>第14回：語彙獲得期の指導・訓練立案③</p> <p>第15回：語彙獲得期の指導・発表</p> <p>第16回：幼児期前期の指導・訓練立案① 柴本</p> <p>第17回：幼児期前期の指導・訓練立案②</p> <p>第18回：幼児期前期の指導・訓練立案③</p> <p>第19回：幼児期の指導・発表</p> <p>第20回：学童期の発達段階別の指導・訓練立案① 柴本</p> <p>第21回：学童期の発達段階別の指導・訓練立案②</p> <p>第22回：学童期の発達段階別の指導・訓練立案③</p> <p>第23回：学童期の発達段階別の指導・訓練発表</p>	<p><担当教員名></p>

	<p>第 24 回：自閉症スペクトラム障害の指導・訓練立案</p> <p>第 25 回：自閉症スペクトラム障害の指導・訓練立案</p> <p>第 26 回：自閉症スペクトラム障害の指導・訓練立案</p> <p>第 27 回：自閉症スペクトラム障害の指導・発表</p> <p>第 28、29、30 回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価</p>	柴本
アクティブラーニング	授業はグループ学修を中心に行います。グループ学修では、Moodle の事前学修の知識を踏まえて各グループに分かれ指導・訓練を立案する。	
評価方法	課題レポート 60%、発表 40% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する	
課題に対するフィードバック	毎回の授業、発表時のフィードバック、課題レポート返却時にコメントします。	
指定図書	大石敬子 「ことばの障害の評価と指導」大修館書店 2001	
参考図書		
事前・事後学修	毎回の事前学習（40 分）：Moodle 上にアップされた課題を行う。 毎回の事後学修（40 分）：グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。	
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3408 研究室 具体的には初回講義時に提示します	

アクティブ ラーニング	Moodle を使用
評価方法	定期試験 80% レポート (1回) 10% 小テスト (3回) 10%
課題に対する フィード バック	小テストを授業の中で行います
指定図書	小林宏明・川合紀宗編著「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」 学苑社
参考図書	
事前・ 事後学修	Moodle による予習・復習 (各 40 分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11:15~13:15 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	摂食嚥下障害学概論																																													
科目責任者	佐藤 豊展																																													
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択・作業選択 3セメスター 言語必修 5セメスター																																													
科目の位置付	2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																													
科目概要	食べ物を認知し、口に取り込んでから胃へと運ばれるまでの摂食・嚥下のメカニズムを理解する。神経疾患、発達障害、器質的原因、加齢変化で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、ライフステージでの摂食嚥下の変化や対処法について学ぶ。嚥下障害の評価・訓練の理論を学ぶ。嚥下障害の訓練に関わる栄養管理、肺理学療法、経管栄養法、吸引の理論を学ぶ。																																													
到達目標	1. 食べ物を口腔に取り込んでから飲み込むまでのメカニズムが説明できる 2. 嚥下障害の原因が説明できる 3. 嚥下障害の評価・訓練の理論について説明できる。 4. 栄養管理、肺理学療法、経管栄養法、吸引について説明できる。																																													
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、有菌信一、佐久間佐織、高橋博達、金谷節子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 嚥下の解剖</td> <td></td> <td><担当教員名> 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： 生理学的基盤</td> <td>★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： 神経制御</td> <td>★小テスト (解剖・生理学的基盤)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化 (発達と加齢に伴う変化)</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第5回： 摂食嚥下障害の原因と病態①神経原性</td> <td></td> <td>高橋 博達・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： //</td> <td>②構造的な原因</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回： //</td> <td>③医原性、栄養障害 ★レポート (食事分析)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第8回： //</td> <td>④小児期</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： 評価理論</td> <td></td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第10回： 訓練理論</td> <td>★小テスト (神経制御、原因と病態)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： 摂食嚥下障害と栄養管理</td> <td></td> <td>金谷 節子・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回： 経管栄養法、吸引</td> <td></td> <td>佐久間 佐織・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法</td> <td></td> <td>有菌 信一・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第14回： リスク管理 (全身管理、カニューレ) グループ学修</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第15回： 総括</td> <td></td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> </table>	第1回： 嚥下の解剖		<担当教員名> 佐藤 豊展	第2回： 生理学的基盤	★レポート	佐藤 豊展	第3回： 神経制御	★小テスト (解剖・生理学的基盤)	佐藤 豊展	第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化 (発達と加齢に伴う変化)		柴本 勇	第5回： 摂食嚥下障害の原因と病態①神経原性		高橋 博達・佐藤 豊展	第6回： //	②構造的な原因	佐藤 豊展	第7回： //	③医原性、栄養障害 ★レポート (食事分析)	佐藤 豊展	第8回： //	④小児期	佐藤 豊展	第9回： 評価理論		柴本 勇	第10回： 訓練理論	★小テスト (神経制御、原因と病態)	佐藤 豊展	第11回： 摂食嚥下障害と栄養管理		金谷 節子・佐藤 豊展	第12回： 経管栄養法、吸引		佐久間 佐織・佐藤豊展	第13回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法		有菌 信一・佐藤豊展	第14回： リスク管理 (全身管理、カニューレ) グループ学修		佐藤 豊展	第15回： 総括		佐藤 豊展
第1回： 嚥下の解剖		<担当教員名> 佐藤 豊展																																												
第2回： 生理学的基盤	★レポート	佐藤 豊展																																												
第3回： 神経制御	★小テスト (解剖・生理学的基盤)	佐藤 豊展																																												
第4回： 摂食嚥下機構の年齢変化 (発達と加齢に伴う変化)		柴本 勇																																												
第5回： 摂食嚥下障害の原因と病態①神経原性		高橋 博達・佐藤 豊展																																												
第6回： //	②構造的な原因	佐藤 豊展																																												
第7回： //	③医原性、栄養障害 ★レポート (食事分析)	佐藤 豊展																																												
第8回： //	④小児期	佐藤 豊展																																												
第9回： 評価理論		柴本 勇																																												
第10回： 訓練理論	★小テスト (神経制御、原因と病態)	佐藤 豊展																																												
第11回： 摂食嚥下障害と栄養管理		金谷 節子・佐藤 豊展																																												
第12回： 経管栄養法、吸引		佐久間 佐織・佐藤豊展																																												
第13回： 呼吸器疾患、呼吸器合併症、肺理学療法		有菌 信一・佐藤豊展																																												
第14回： リスク管理 (全身管理、カニューレ) グループ学修		佐藤 豊展																																												
第15回： 総括		佐藤 豊展																																												
アクティブラーニング	グループ学修形式を取り入れて行います。																																													
評価方法	定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%																																													
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																																													
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 (医歯薬出版)																																													
事前・事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題 (指定図書における予習内容) を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1回の事前・事後学修時間は40分と考えています。																																													
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512研究室、月曜 15:00~17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。																																													

科目名	摂食嚥下障害学																																				
科目責任者	佐藤 豊展																																				
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター																																				
科目の位置付	2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																				
科目概要	摂食嚥下障害の評価、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、訓練手技について学ぶ。ST が行う情報収集・理学的所見・スクリーニング検査、医師とともに行う精密検査などの評価から摂食嚥下障害の特徴と問題点を明らかにする。摂食嚥下障害への直接訓練や間接訓練について学んでいく。事例検討を通して、臨床現場で対応できる知識・考え方を身につける。																																				
到達目標	1. 情報収集や理学的所見、スクリーニング検査から問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。 2. VF、VE の目的や意義、評価用紙への記録方法を説明できるとともに、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。 3. 各種訓練の目的や意義、方法を具体的に説明し、模擬的に実施することができる。 4. 事例検討時に症状や特徴を把握し、問題点の抽出や訓練プログラムの立案ができる。 5. 症例報告書が作成できる。																																				
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、高橋博達</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集</td> <td>演習</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回： "</td> <td>②理学的所見</td> <td>演習 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回： "</td> <td>③スクリーニング</td> <td>演習 佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回： "</td> <td>④VE の評価・記録</td> <td>演習 ★レポート (VE) 高橋博達・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回： "</td> <td>⑤VF の評価・記録</td> <td>演習 ★レポート (VF) 高橋博達・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定</td> <td>講義・演習</td> <td>佐藤 豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第7回： "</td> <td>②</td> <td>" 佐藤 豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第8回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法</td> <td>講義・演習</td> <td>柴本 勇・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回： "</td> <td>②嚥下手技</td> <td>講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回： "</td> <td>③食事介助</td> <td>講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第11回： 報告書作成</td> <td>★小テスト (評価・訓練)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第12～15回： 事例検討 (評価、問題点抽出、訓練プログラム立案)</td> <td>★レポート (症例報告書)</td> <td>佐藤 豊展・柴本 勇</td> </tr> </table> <p>*この他に1コマ聖隷三方原病院で嚥下造影の見学を少人数ずつ行なう</p>	第1回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集	演習	佐藤 豊展	第2回： "	②理学的所見	演習 佐藤 豊展	第3回： "	③スクリーニング	演習 佐藤 豊展	第4回： "	④VE の評価・記録	演習 ★レポート (VE) 高橋博達・佐藤 豊展	第5回： "	⑤VF の評価・記録	演習 ★レポート (VF) 高橋博達・佐藤 豊展	第6回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	講義・演習	佐藤 豊展・柴本 勇	第7回： "	②	" 佐藤 豊展・柴本 勇	第8回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	講義・演習	柴本 勇・佐藤 豊展	第9回： "	②嚥下手技	講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展	第10回： "	③食事介助	講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展	第11回： 報告書作成	★小テスト (評価・訓練)	佐藤 豊展	第12～15回： 事例検討 (評価、問題点抽出、訓練プログラム立案)	★レポート (症例報告書)	佐藤 豊展・柴本 勇
第1回： 摂食嚥下障害の評価①情報収集	演習	佐藤 豊展																																			
第2回： "	②理学的所見	演習 佐藤 豊展																																			
第3回： "	③スクリーニング	演習 佐藤 豊展																																			
第4回： "	④VE の評価・記録	演習 ★レポート (VE) 高橋博達・佐藤 豊展																																			
第5回： "	⑤VF の評価・記録	演習 ★レポート (VF) 高橋博達・佐藤 豊展																																			
第6回： 摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	講義・演習	佐藤 豊展・柴本 勇																																			
第7回： "	②	" 佐藤 豊展・柴本 勇																																			
第8回： 摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	講義・演習	柴本 勇・佐藤 豊展																																			
第9回： "	②嚥下手技	講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展																																			
第10回： "	③食事介助	講義・演習 柴本 勇・佐藤 豊展																																			
第11回： 報告書作成	★小テスト (評価・訓練)	佐藤 豊展																																			
第12～15回： 事例検討 (評価、問題点抽出、訓練プログラム立案)	★レポート (症例報告書)	佐藤 豊展・柴本 勇																																			
アクティブラーニング	事例検討では、グループ学修形式で行います。 VE・VF は、moodle を活用して、レポート課題を行います。																																				
評価方法	定期試験 60%、レポート 30%、小テスト 10% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する																																				
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																																				
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学 (医歯薬出版)																																				
事前・事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題 (指定図書における予習内容) を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。																																				
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15 : 00～17 : 30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。																																				

科目名	聴覚障害学Ⅲ
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2単位 (60 時間) 言語必修 5セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる 専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	乳幼児聴力検査の講義と演習を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解する。さらに、先天性聴覚障害児の認知・言語・心理的側面の典型的症状と評価法について学習し、幼児期の聴覚障害児の指導プログラムのあり方について学ぶ。その上で、協力者の協力を得て、実際に聴覚障害幼児・学童を評価して、訓練指導プログラムを立案する。
到達目標	1. 新生児聴覚スクリーニングに用いる検査について、原理、対象年齢、手技を説明することができる。 2. 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。 3. 小児の聴覚評価と言語指導のプログラムを立案し、報告書として纏めることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、小児聴覚障害概論</p> <p>第 2 回：聴覚障害の早期発見と療育</p> <p>第 3 回：乳幼児の聴覚発達</p> <p>第 4 回：新生児聴覚スクリーニングの理論 (AABR、OAE、ABR、ASSR)</p> <p>第 5 回：乳幼児の聴力検査の理論 (BOA、COR、VRA)</p> <p>第 6 回：乳幼児の聴力検査の実際</p> <p>第 7 回：演習① (学生同士)</p> <p>第 8 回：演習② (学生同士)</p> <p>第 9 回：乳幼児の聴力検査の理論 (PEEP SHOW、Play Audiometry)</p> <p>第 10 回：乳幼児の聴力検査の実際</p> <p>第 11 回：演習③ (学生同士)</p> <p>第 12 回：演習④ (学生同士)</p> <p>第 13 回：演習⑤ (学生同士)</p> <p>第 14 回：演習⑥ (学生同士)</p> <p>第 15 回：聴覚障害児の発達過程とライフステージに応じた評価・支援の実際</p> <p>第 16 回：聴覚障害児臨床における関連情報の収集</p> <p>第 17 回：聴覚障害児の言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方①</p> <p>第 18 回：聴覚障害児の言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方②</p> <p>第 19 回：言語・コミュニケーション評価計画の立案と作成①</p> <p>第 20 回：言語・コミュニケーション評価計画の立案と作成②</p> <p>第 21 回：評価計画の実施 (学生同士で確認) ①</p> <p>第 22 回：評価計画の実施 (学生同士で確認) ②</p> <p>第 23 回：演習⑦ (聴覚障害児)</p> <p>第 24 回：演習⑧ (聴覚障害児)</p> <p>第 25 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討</p> <p>第 26 回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討</p> <p>第 27 回：演習⑨ (聴覚障害児)</p> <p>第 28 回：演習⑩ (聴覚障害児)</p> <p>第 29 回：報告会①</p> <p>第 30 回：報告会②</p>

アクティブ ラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。 後半は、協力者（難聴幼児学童とその保護者）に協力を頂いた演習となり、グループごとに評価・訓練内容について検討する。
評価方法	定期試験 50%、乳幼児検査手技（グループへの参加度、平常点含む） 30%、報告書（発表含む） 20% ※乳幼児検査（PEEP SHOW、COR）の達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対する フィード バック	学生同士の検査演習における手技、評価計画書・報告書については、その場でフィードバックする。実際の難聴児への関わりについては、演習終了後にフィードバックを行う。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおく。 乳幼児検査（PEEP SHOW、COR）は、授業時間以外に練習し、単独で実施できるようにしておく。 グループ毎に演習の準備、評価・訓練プログラムの立案を行う。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	聴覚障害学Ⅳ
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 6セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる 専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	聴覚障害学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を整理し、早期発見、聴覚補償(補聴器、人工内耳)、言語・コミュニケーション指導、保護者支援について、生涯発達観点から、乳幼児期(言語習得前)と成人期(中途失聴)の固有の課題を学ぶ。さらに、視聴覚二重障害の障害構造を理解し、生活上の課題や支援のあり方を学ぶ。
到達目標	以下について、説明することができる。 1. 乳幼児の固有性を考慮した補聴器・人工内耳の適合支援、言語・コミュニケーション支援法。 2. 成人聴覚障害者の補聴・言語・コミュニケーション支援法。 3. 視聴覚二重障害の実態や支援のあり方。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大原重洋、井関雅雄</p> <p>第 1,2 回: シラバスの説明/聴覚障害児の言語指導の概要 大原</p> <p>第 3,4 回: 聴覚障害の出現率と早期発見システム 大原</p> <p>第 5,6 回: 聴覚活用と聴覚学習:音声言語習得上の課題と指導理論 大原</p> <p>第 7,8 回: 視聴覚二重障害(盲ろう)児者の実態と支援 大原</p> <p>第 9,10,11 回: 聴覚感覚補償機器(補聴器・人工内耳)の効果と限界 大原</p> <p>第 12 回: 中途失聴者・難聴者の聴覚補償について 井関</p> <p>第 13 回: 中途失聴者・難聴者のコミュニケーション支援について 井関</p> <p>第 14 回: 成人の読話指導 井関</p> <p>第 15 回: 成人の読話指導 井関</p>

アクティブ ラーニング	授業進行に応じ、適時、臨床場면을撮影したビデオ動画を視聴し、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
評価方法	定期試験 60% レポート 20% 小テスト 20%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに記載された質問、小テストの内容については、次回の授業で解説する。
指定図書	中村公枝他編『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	大原担当分は、最終日を除き、授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床実習 I
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2 単位 (90 時間) 言語必修 6 セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	言語聴覚障害の評価・診断・目標設定などについて学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例を通して学ぶ。これまで学内で学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認し、再統合する機会とする。また、臨床におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員および実習指導者に適切に報告・連絡・相談ができる。 2. 情報収集に始まり、適切な検査法を選択できる。 3. 検査・観察などを通して患児・者の全体像を把握し、文章化できる。 4. 社会人としての基本的態度を養う。
授業計画	<p><担当教員> 大原重洋、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、石津希代子、中村哲也、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について実習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対する フィード バック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用了教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3405 研究室 水曜日：8 時 50 分～10 時 10 分</p> <p>上記以外でもメール (shigehiro-o@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	臨床実習Ⅱ
科目責任者	佐藤豊展
単位数他	6単位(270時間) 言語必修 7セメスター
科目の位置付	(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、これまで学んだ専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、実際の症例の言語聴覚障害を評価・診断し、目標設定を行う。さらに訓練プログラムの立案ならびにその実践を通し、専門技術について学ぶ。また、臨床場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行、結果の解釈と鑑別診断、目標の設定などが行えるようになる。
授業計画	<担当教員> 佐藤豊展、柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也 <授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害(嚥下障害含む)の評価・訓練に関する諸事項について実習を行う。 ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。
アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
事前・事後学修	※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ⅰの事前学習を行う。 ※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。 ※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodleの当該コースに示します。 ※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。 ※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。 ※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。

科目名	臨床実習Ⅲ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	6単位 (270時間) 言語必修 7セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	言語聴覚療法の実際について学ぶ。臨床実習Ⅲでは臨地施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例の言語聴覚障害の評価・診断から目標設定をし、訓練プログラムの立案ならびにその実践を通して専門技術を総合的に学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 最後の臨床実習としてこれまでに学修してきた専門知識や技術を再確認、再統合する。 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行を通して障害を正しく評価できる。 訓練プログラムを設定し、訓練を行うことができる。 報告書としてまとめ発表する。
授業計画	<p><担当教員> 柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、石津希代子、中村哲也、佐藤豊展、</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>言語聴覚障害（嚙下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成 <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
参考図書	
事前・事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。

科目名	卒業研究 I
科目責任者	石津希代子
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	<p>卒業研究 I～IIIの総合目的は、言語聴覚障害学ならびに関連領域における具体的課題について、より深く広い理解を得ることにあります。卒業研究を通して、専門知識を一層深めるとともに、自ら調査・実験を行い、研究課題を解決する能力を身につけることが目標です。個人毎に指導教員を決め、指導教員のゼミに所属して研究を行います。指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていきます。</p> <p>卒業研究 I では特に、研究の進め方について理解した上で、教員の指導のもと、研究テーマを選び発展させる方向を探求します。これまでに学んだ知識に、文献などにより学んだ新たな専門知識を加え、自己の研究テーマの背景を知り、自己の研究目的やその意義について理解を深めます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問・研究テーマを挙げる。 2. 研究目的・目標を明確に記載する。 3. 関連する先行研究 (5 編以上) を挙げる。 4. 具体的な研究計画書 (方法、実施スケジュール等) を作成する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>研究のテーマの設定、実施計画、関連知識の学習など、下記の内容について、指導教員と議論を重ね立案・実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見する。 2. 研究目的・目標を明確に設定し、関連する研究の文献調査を行う。 3. 具体的な研究計画を立てる。 4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 <p>各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なりますが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていきます。</p> <p>第 1 回： オリエンテーション (石津、柴本、佐藤順子、谷、大原、中村、佐藤豊展)</p> <p>第 2 回： 研究法 (石津、佐藤順子)</p> <p>第 3 回： 研究倫理 (石津、佐藤順子)</p> <p>第 4 回： 研究倫理 (石津、佐藤順子)</p> <p>第 5～13 回： 各ゼミに分かれて実施 (石津、柴本、佐藤順子、谷、大原、中村、佐藤豊展)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの選定 ・関係資料の収集と整理 ・先行研究の収集と整理 ・ゼミ発表・報告 ・研究計画の立案、修正 <p>第 14～15 回： 中間報告会 (石津、柴本、佐藤順子、谷、大原、中村、佐藤豊展)</p>
アクティブラーニング	クラス全体もしくは各ゼミ単位で、ペアワーク、グループワークを通して自身の考えを深め、表現をしたり、グループで考えをまとめたりします。
評価方法	ゼミ活動 (60%)、中間報告書 (40%) により評価します。
課題に対するフィードバック	毎回のゼミ時に、指導教員から口頭又は書面にてフィードバックをします。
指定図書	『よくわかる卒論の書き方』白井利明他、ミネルヴァ書房
参考図書	

事前・ 事後学修	ゼミ担当教員より、必要な事前学修、事後学修の課題が示されます。
オフィス アワー	初回ゼミ時に、ゼミ担当教員が提示します。

科目名	卒業研究Ⅱ
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1単位(30時間) 言語必修 6セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や 技能等を総合的に活用し、それぞれ の人にあわせて課題を解決する実践 力につなげることができる。
科目概要	卒業研究Ⅱでは、言語聴覚障害学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を読み、教員や他のメンバーに概要を伝えることができる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 5. 研究目的、関連する先行研究（5編以上）、研究方法、今後のスケジュールを記載した中間報告書を作成し、中間報告会で発表する。
授業計画	<p><担当教員名> 柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展、</p> <p><授業内容・テーマ等> 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。</p> <p>第1回： 卒業研究の概要説明</p> <p>第2回： 研究法の多様性を知る</p> <p>第3回： テーマの仮設定</p> <p>第4回： 関係資料の収集</p> <p>第5回： 関係資料の整理</p> <p>第6回： 抄読会</p> <p>第7回： 先行研究の収集と整理</p> <p>第8回： ゼミ報告（先行研究と自分のテーマとの関連性について）</p> <p>第9回： ゼミ報告（先行研究に学ぶ研究法の選択）</p> <p>第10回： 研究計画の立案</p> <p>第11回： ゼミ発表・報告</p> <p>第12回： 研究計画の修正</p> <p>第13回： テーマの再確認と年間計画立案</p> <p>第14回： 中間報告会</p> <p>第15回： 中間報告会</p>
アクティブ ラーニング	担当教員の指導を受けながら、自ら資料を収集し、実験計画を立て、他のゼミメンバーとの議論を通じて、研究を進めていく。

評価方法	ゼミ参加・研究態度 (30%)、口述発表 (20%)、中間報告書 (50%)
課題に対するフィードバック	グループ学習はゼミ形式で担当教員の指導を受けながら行う。
指定図書	なし
参考図書	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい日本語を書けるように基礎的な学修に取り組む。 ・各ゼミで出される課題・調べ物について協同して取り組むこと。 ・書籍や論文を丁寧に読み、内容を正しく理解し、要約して人に伝えられるようにする。 ・文献を通して研究法の多様性を知り、自分の研究にあてはめて検討する。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します</p>

科目名	卒業研究Ⅲ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位（30時間） 言語必修 8セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や 技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践 力につなげることができる。
科目概要	卒業研究Ⅰ、Ⅱを踏まえて、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマに沿って、研究計画を立案し、実験・調査によりデータ収集・解析する。その研究結果を考察して卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚領域における研究の意義を理解する。 2. 担当教員の指導のもと、テーマに沿って研究を計画し、実施する。 3. 研究結果を考察し、口述発表する。 4. 卒業論文を執筆する。
授業計画	<p><担当教員名> 柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、石津希代子、中村哲也、佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等> 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献研究 ・研究テーマの明確化と変数の設定 ・研究計画の作成（倫理的考察も含む） ・調査・実験課題の作成（対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など） ・データの採取 ・データの解析と処理 ・考察 ・発表 ・論文執筆

アクティブラーニング	担当教員の指導を受けながら、自らデータを収集・分析し、他のゼミメンバーとの議論を通じて、研究を進めていく。
評価方法	ゼミ参加・研究態度 (35%)、卒業論文 (65%)
課題に対するフィードバック	グループ学習はゼミ形式で担当教員の指導を受けながら行う。
指定図書	なし
参考図書	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい日本語を書けるように基礎的な学修に取り組む。 ・各ゼミで出される課題・調べ物について協同して取り組むこと。 ・書籍や論文を丁寧に読み、内容を正しく理解し、要約して人に伝えられるようにする。 ・文献を通して研究法の多様性を知り、自分の研究にあてはめて検討する。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3408 研究室 具体的には、初回講義時に提示します</p>

科目名	総合演習	
科目責任者	柴本 勇	
単位数他	2単位 (60時間) 言語必修 6セメスター	
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	1 セメスターから5 セメスターまでに学修した内容の総まとめとして、獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、臨床実習に備える。実習生としての基本的な姿勢(身だしなみや態度、ことば遣い、症例や家族、他のスタッフに対する配慮など)を身につけるとともに、情報収集や観察記録の取り方、各種検査の実施と記録、評価のまとめと症状分析、日誌の作成とカルテ記入、Deep Test の作成、訓練プログラムの立案、症例報告やレポート作成など、言語聴覚療法の臨床に関する一連の内容を総合的に再学習し整理する。適宜、知識面や実技チェックを行い、習得の成果を確認する。	
到達目標	1. リハビリテーション専門職を目指す実習生としての確かな行動ができる。 2. 学修した知識を口頭で説明することができる。 3. 対象者の状態に適したリハビリテーションを実践できる 4. 実習を想定した演習で観察・記録したことを、効率よく文章化し、書面にて報告できる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション (臨床の流れ、臨床実習とは)</p> <p>第2回：心構え、報告・連絡・相談 (態度・マナー・言葉遣い等)</p> <p>第3回：安全管理</p> <p>第4回：行動観察、記録 (行動の言語化～意味づけ 日誌、メモの取り扱い、提出の仕方)</p> <p>第5回：行動観察・記録練習 (症例ビデオ)</p> <p>第6回：失語症 (情報収集、評価)</p> <p>第7回：失語症 (評価のまとめ、訓練プログラム)</p> <p>第8回：高次脳機能障害 (情報収集、評価)</p> <p>第9回：高次脳機能障害 (評価のまとめ、訓練プログラム)</p> <p>第10回：構音障害 (情報収集、評価)</p> <p>第11回：構音障害 (評価のまとめ、訓練プログラム)</p> <p>第12回：嚥下障害 (情報収集、評価)</p> <p>第13回：嚥下障害 (評価のまとめ、訓練プログラム)</p> <p>第14回：情報収集 (検査所見、カルテ、家族・他職種等)</p> <p>第15回：画像診断</p> <p>第16回：スクリーングテストの作成</p> <p>第17回：スクリーングテストの実施</p> <p>第18回：実技チェック① (検査等)</p>	<p><担当教員></p> <p>柴本</p> <p>柴本</p> <p>中村・石津</p> <p>中村・石津</p> <p>中村・石津</p> <p>谷</p> <p>谷</p> <p>佐藤順</p> <p>佐藤順</p> <p>柴本</p> <p>柴本</p> <p>佐藤豊</p> <p>佐藤豊</p> <p>石津・中村</p> <p>谷</p> <p>全教員</p> <p>全教員</p> <p>全教員</p>

	第19回：実技チェック②（検査等） 第20回：実技チェックの振り返り 第21回：症例検討①（評価のまとめ、Deep Test、 訓練プログラム） 第22回：症例検討② 第23回：症例検討③ 第24回：トランスファー、バイタルチェック① 第25回：トランスファー、バイタルチェック② 第26回：報告書の作成 第27回：実技試験③（OSCE） 第28回：実技試験④（OSCE） 第29回：実技試験振り返り 第30回：まとめ	全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 PT学科教員 PT学科教員 全教員 ST 全教員 ST 全教員 ST 全教員 全教員
アクティブラーニング	Moodle を使用します	
評価方法	定期試験 40% レポート 20% 実技試験 40%（演習記録 20%、実技 20%） 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する	
課題に対するフィードバック	授業の中でチェックし返却	
指定図書	深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、佐竹恒夫編：凶解 言語聴覚療法技術ガイド。文光堂，2014	
参考図書		
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指定図書以外に、これまでの授業で使用した教科書に戻って学修を深めることを勧めます。 ・毎回の授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodle の当該コースに随時示します。 ・毎回の講義終了時に予習・復習内容を示します。必ず予習・復習をした上で受講して下さい。 ・資料を整理するためのファイル（2 穴リングファイル）およびインデックス等を用意して下さい。 ・Moodle による予習・復習（各 40 分） 	
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3408 研究室 初回講義時に提示します	

科目名	国際作業療法実習
科目責任者	建木 健
単位数他	2 単位数 (90 時間) 作業選択 3~8 セメスター
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国内で学修した作業療法の基礎知識を土台に、海外のリハビリテーション関連施設での作業療法の実践に触れる実習である。作業療法士を目指す学生として、国際的な視野に立った視点の形成と、それに基づく新たな自己課題の発見および目標設定の機会とする。 国内での教員の指導に加え、現地での教員による指導、作業療法関連スタッフの指導により実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地のリハビリテーションの現状、作業療法士の役割について理解できる ・ 国際的な視野に立ち、作業療法士を目指す自己の課題を発見できる
授業計画	<p><担当教員名>建木 健、鈴木 達也 (全てを2人で担当) ※現地での指導は、現地教員および、実習受入施設作業療法職員が行う。</p> <p><授業内容・テーマ等> 実施期間：2018年3月上旬から2週間 対象人数：2名の予定</p> <p>臨床実習 1 週目 現地オリエンテーション、臨床実習施設にて実習 2 週目 臨床実習施設にて実習 帰国 ・ 実習期間中は事前に作成した Learning Contract に基づき実施し、その内容について現地教員の評価を受ける</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ Learning Contract の内容 80% ・ 提出レポート 20%
課題に対するフィードバック	臨床実習施設にてフィードバックを受ける。帰国後にその記録を担当教員に提出し、フィードバックを受ける。
指定図書	なし

参考図書	
事前・ 事後学修	<p>事前学修（15 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Leaning Contract (学習目的、方法) の作成指導 ・ 渡航・現地生活に関する指導・英会話講習（国際交流センター職員による） <p>事後学修（15 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国後はレポート（A4 サイズ 2～3 ページ）と感想を提出し、教員の指導を受ける
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3511 研究室</p> <p>時間等：毎週水曜日 12 時～13 時。</p> <p>上記以外でもメール（ken-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	音楽療法概論
科目責任者	山田 美代子
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択・言語選択 5 Semester
科目の位置付	DP (3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	様々な領域における音楽療法の理論や技法を学ぶ。ビデオなど視聴覚教材を通じて、また実践現場を見学し、体験的に理解を深める。関心領域での音楽セッションをグループで計画し、発表をする。模擬的であってもその過程（計画～発表）で学んだことをディスカッションし、音楽療法を総括する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法の基本的な理論や技法を知る。 2. 対象者のニーズに合わせた具体的な音楽療法またその技術の実際を体験的に習得する。 3. 歌うという音楽活動を科学的な側面から理解する。 4. 医療音楽療法からコミュニティ音楽療法への関係とその実際を体験的に理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 山田美代子</p> <p>第1回：音楽療法とは 歴史・定義</p> <p>第2回：音楽療法の実践 セッションの実際</p> <p>第3回：コミュニティ音楽療法</p> <p>第4回：リハビリテーション領域における音楽療法</p> <p>第5回：精神科領域の音楽療法</p> <p>第6回：高齢者の音楽療法</p> <p>第7回：実践現場「The 合唱団」を体験 ①</p> <p>第8回：実践現場「The 合唱団」を体験 ②</p> <p>第9回：発達障害児の音楽療法</p> <p>第10回：生活の中での音・音楽療法</p> <p>第11回：音楽認知における脳機能画像（光トポグラフィ装置）に関する研究</p> <p>第12回：音楽療法の計画から模擬セッション ①</p> <p>第13回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング②</p> <p>第14回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング③</p> <p>第15回：発表とまとめ</p>
アクティブラーニング	第7・8回は、実習。第12～15回は、関心領域におけるセッションの計画から実践までをグループによるPBLで行い、取り組みを発表する。

評価方法	授業態度 30%、課題提出物 10%、レポート 10%、定期試験 50%
課題に対するフィードバック	第7・8回終了後、レポートを作成し提出する。通常授業リアクションペーパーへの回答は次の授業の最初に回答する。内容によっては個別にコメントし返却する。
指定図書	プリント配布を原則
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	対象領域や対象者によって用いる音楽は様々である為、事前学習として関連音楽について調べ、授業終了後に聞いたり歌ったりする等、実践的に楽しみながら修得する。
オフィスアワー	質問のある場合には、授業終了時前に申し出てほしい。終了後の場合、教務事務センターを介して受け付けをする。

科目名	絵画療法
科目責任者	中道 芳美
単位数他	1単位 (30時間) 言語選択 5セメスター
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	絵を描くことで、身体の諸機能への働きかけ、残存機能の維持と回復を促すことを知る。創造的な治療方法として、精神のリラックス効果、QOLの向上、心のケアを促すことを学ぶ。絵画による表現活動が人間に与える身体的、精神的、心理的、社会的な影響や効果について理解する。
到達目標	1. 絵画を通して、自己表現や他者との関わりを学ぶ。 2. 絵画制作の実技を通して、表現技術を学ぶ。(学生各自の実習体験) 3. 他者への共感的態度をもち、豊かな対人関係を築いて、チーム医療の実践ができる能力を身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>中道 芳美</p> <p>第1回：ガイダンス、知的障害児者、心身障害児者、高齢者(認知症)作品紹介、世界の画家たち紹介(障害者も含む)</p> <p>第2回：実技体験、クレヨン、水彩絵の具の使い方表現、方法を学ぶ</p> <p>第3回：実技体験、模写</p> <p>第4回：実技体験、自分の作品を描く</p> <p>第5回：実技、自分の作品を仕上げる、継続する大切さを学ぶ</p> <p>第6回：共同制作に取り組む、グループに分かれて話し合う</p> <p>第7回：共同制作作品のテーマに合う画材を学ぶ。世界の画家作品を参考とする。</p> <p>第8回：春の花の共同制作</p> <p>第9回：夏の花の共同制作</p> <p>第10回：行事用の共同制作</p> <p>第11回：右ききの人は左手で描くということ…</p> <p>第12回：残存機能の維持と回復を促す体験実技</p> <p>第13回：精神的影響、リラックス効果の体験実技</p> <p>第14回：絵てがみを描く、小さな画用紙使用</p> <p>第15回：作品完成、全体評価</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	実技・課題提出物 30%、授業態度 50%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	なし

指定図書	なし
参考図書	世界の画家作品（画集等）、講師が用意する。
事前・ 事後学修	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	園芸療法
科目責任者	秋葉 保
単位数他	1単位(30時間) 言語選択 5 Semester
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	植物の栽培体験を通して、対象者に精神面、知能面、身体機能面、社会性面で園芸療法が有効であることについて学ぶ。植物の特性と生育環境(土壌・水・光・温度・肥料・阻害因子等)を学び園芸療法の対象者に対する効果について学ぶ。園芸療法プログラム作成と運用、植物栽培実習(鉢栽培)を行う。
到達目標	1. 大多数の学生は植物栽培経験が少ないことを前提に植物栽培に必要な環境を学び、実習を通して植物栽培が出来るようにする。 2. 植物栽培と並行して園芸療法の目的・効用・プログラム作成等を学ぶ。 3. 実践の場で園芸療法が出来る力を身に着ける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>秋葉 保</p> <p>第1回：園芸療法について 第2回：受講生に期待することと学園の理念 第3回：園芸活動と園芸療法の違いと療法への応用 第4回：植物の特性について 第5回：植物栽培について 第6回：園芸療法の構造と要素 第7回：園芸療法の特性と園芸活動 第8回：植物の特性と生育に必要な条件 第9回：園芸療法士の心構え 第10回：園芸療法の対象者とプログラム 第11回：園芸療法のプログラム設計 第12回：園芸療法の手順と実行 第13回：実践レポートから学ぶ① 第14回：実践レポートから学ぶ② 第15回：まとめ</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	植物栽培 30%、レポート30%、小テスト20%、リアクションペーパー20%
課題に対するフィードバック	評価方法を踏まえて、筆記試験の解答例の提示、テストの解説、レポート返却と解説・リアクションペーパーの返答・説明
指定図書	園芸ノート50ページ(印刷物) 学生に提供
参考図書	特に義務付けない。図書館にある関係書籍は園芸ノートに記載済。
事前・事後学修	毎回行う植物栽培の管理は自己責任になります。観察・記録・報告が伴います。20～30分。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターにて受け付けます。

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川浩昭
単位数他	1単位 (30時間) 言語選択 5セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、他職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	公衆衛生学は健康を保持、増進、予防するための実践的科学である。社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための公衆衛生学の現状を理解する。具体的には、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当>西川浩昭</p> <p>第1回 公衆衛生の概念</p> <p>第2回 疾病予防、健康増進、公衆衛生活動</p> <p>第3回 健康指標</p> <p>第4回 感染症とその対策① 感染症予防法</p> <p>第5回 感染症とその対策② 予防接種、その他</p> <p>第6回 食品衛生</p> <p>第7回 生活習慣</p> <p>第8回 学校保健</p> <p>第9回 産業保健</p> <p>第10回 生活環境① 居住環境</p> <p>第11回 生活環境② 上下水道、廃棄物</p> <p>第12回 生活環境③ 騒音、振動</p> <p>第13回 生活環境④ 大気汚染</p> <p>第14回 生活環境⑤ 水質汚濁、海洋汚染</p> <p>第15回 環境保健 地球環境問題 (地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、その他)</p>
アクティブラーニング	講義に問題演習を取り入れた授業を行います。
評価方法	授業における成果 (発言、提出物) 30% 定期試験 70%
課題に対するフィードバック	演習問題の解答例の提示と解説を行います。
指定図書	鈴木庄亮 監修 シンプル衛生公衆衛生学 2018 南江堂 国民衛生の動向 2017/2018 厚生労働統計協会
参考図書	医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア

事前・ 事後学修	事前学修：内容は指定図書等の予習。時間の目安は約90分（60分～120分）です。 事後学修：前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は約60分（45分～75分）です。
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。